

UNIVERSITY CATALOGUE

学生要覧

東京電機大学大学院未来科学研究科

2012 修士課程

TOKYO DENKI UNIVERSITY
Graduate School of Science
and Technology for Future Life
Master's Program.

TDU

2012 年度 年間行事予定

主 要 行 事	平成 24 年度
・入学式	4 月 2 日 (月)
・新入生ガイダンス	4 月 4 日 (水)
・健康診断	4 月 5 日 (木)
・前期授業開始	4 月 10 日 (火)
・授業日(「海の日」であるが 月曜日の授業実施日とする日)	7 月 16 日 (月)
・前期授業終了	7 月 16 日 (月)
・振替休日	7 月 17 日 (火)
・授業予備日	7 月 18 日 (水)・19 日 (木)
・前期補講期間	7 月 20 日 (金)～31 日 (火)
・夏季休業	8 月 1 日 (水)～9 月 9 日 (日)
・後期授業開始	9 月 10 日 (月)
・創立記念日	9 月 11 日 (火)
・学園祭(期間中休講)	9 月 19 日 (水)～9 月 24 日 (月)
・授業終了(年内)	12 月 20 日 (木)
・授業予備日	12 月 21 日 (金)
・冬季休業	12 月 24 日 (月)～1 月 6 日 (日)
・後期授業再開	1 月 7 日 (月)
・後期授業終了	1 月 12 日 (土)
・授業予備日	1 月 15 日 (火)・16 日 (水)
・後期補講期間	1 月 17 日 (木)～30 日 (水)
・大学入試センター試験および準備に伴う 2号館閉館(当該期間は休講)	1 月 18 日 (金)～20 日 (日)
・【修士論文・研究成果報告書予稿受付期間】	1 月 25 日 (金)～28 日 (月)
・【修士論文・研究成果報告書締切(審査用)】	1 月 31 日 (木)
・【修士論文・研究成果試問期間】	2 月 1 日 (金)～15 日 (金)
・【修士論文及び研究成果発表会 (専攻ごと、口頭発表会)】	2 月 6 日 (水)～19 日 (火)
・【修士論文及び研究成果発表会(研究科合同)発表会】	2 月 16 日 (土)(予定)
・【修士論文・研究成果報告書最終締切(保存用)】	2 月 28 日 (木)
・【修了式】	3 月 17 日 (日)(予定)

※【 】内は参考として平成 24 年度修了年次生の予定を記載

UNIVERSITY CATALOGUE

学生要覧 2012 大学院編

東京電機大学大学院未来科学研究科

目 次

学修案内

大学院への期待（学長 古田勝久）	2
専門性と指導力（未来科学研究科委員長 安田 浩）	3
1 東京電機大学大学院の建学の精神	4
2 東京電機大学大学院の教育・研究理念	4
3 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	4
未来科学研究科	
建築学専攻	
情報メディア学専攻	
ロボット・メカトロニクス学専攻	
4 (財)大学基準協会による認証評価（大学評価）の受審について	5

履修案内

1 学生ポータルサイト（UNIPA）の活用について	8
2 学生に対する通知・連絡方法（掲示）について	11
3 履修登録	12
4 履修することができる授業科目	12
5 他大学院との単位互換協定に基づく授業科目履修の扱い	13
6 昼夜開講制の実施	13
7 授業	14
8 シラバス（講義要目）	15
9 試験及び成績評価	15
10 修了要件	16
11 学位	19
12 修士論文等の取扱い	20
13 教育職員免許状	23
14 一級建築士受験資格要件（実務経験）～2012（平成24）年度入学者～	25
15 一級建築士受験資格要件（実務経験）～2011（平成23）年度以前入学者～	27
16 先端科学技術研究科博士課程（後期）進学	29
17 留学	29
18 連携大学院協定研究所	31

授業科目配当表及び研究指導教員等（専門分野と指導研究テーマ）

1 建築学専攻	35
2 情報メディア学専攻	43
3 ロボット・メカトロニクス学専攻	49

学生生活

1 窓口取扱い	56
2 証明書関係	56
3 正課授業による閉館時間中の施設利用	57

4	大学院研究費による補助取扱い	57
5	学籍	58
6	学生証	59
7	学費	61
8	奨学金制度	62
9	副手制度	64
10	保険制度	65
11	教育訓練給付制度	69
12	その他	69
	校友会活動	70
	各種施設の利用	
	総合メディアセンター	75
	図書サービス	77
	コンピュータサービス	81
	STOP! HARASSMENT	85
	諸規程	
	東京電機大学大学院学則	90
	東京電機大学大学院未来科学研究科規則	100
	東京電機大学学位規程（抄）	102
	東京電機大学学生救済奨学金貸与規程	105
	東京電機大学学生支援奨学金貸与規程	107
	沿革	110
	その他	
	東京電機大学校歌・学生歌	114

TDUプライバシーポリシー

学校法人東京電機大学の個人情報保護に関する取組み

学校法人東京電機大学は、個人情報の保護に関する法律（平成十五年法律第五十七号）に基づき、個人情報保護の重要性に鑑み、保有する個人情報の取扱いについて、適正な収集、利用、管理及び保存を図り、もって個人の権利利益及びプライバシーを保護するため、次の事項を遵守します。

1. 個人情報の収集

個人情報の収集は、必要な範囲内において利用目的を明確に定めて、適正かつ公正な方法によって行います。

2. 個人情報の利用

個人情報の利用は、目的達成に必要な範囲内で利用します。

3. 個人情報の提供

個人情報は、法令に基づくとき、本人の同意があるとき等を除き、第三者に提供いたしません。

4. 個人情報の管理

個人情報は、個人情報保護責任者を定めて、正確かつ安全に、管理及び保存を行います。

5. 個人情報に関する請求への対応

個人情報の開示、不開示、訂正、利用停止等の請求に速やかに対応いたします。

6. 個人情報保護の推進等

個人情報保護推進等のため、必要な組織（委員会）を設置します。

東京電機大学工学部・未来科学部事務部及び学生支援センター セキュリティポリシー

東京電機大学工学部・未来科学部事務部及び学生支援センターでは、業務を滞りなく遂行する上で、収集及び知り得る「個人情報」（氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができる情報）について、情報基盤の整備、管理、活用することの責務を認識し、厳重な管理体制のもとで情報資産の管理、保管を行い、情報の機密性、安全性を維持することにより、「個人情報」保護の促進に努めます。

また、本来の目的以外で「個人情報」を第三者等に漏洩することのないよう、「東京電機大学工学部・未来科学部事務部及び学生支援センター個人情報保護に関するガイドライン」を遵守し、合理的な範囲内でセキュリティの強化に努めます。

以上

学 修 案 内

大学院への期待

学長 古田勝久

東京電機大学大学院は、修士課程の工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科、および博士課程（後期）の先端科学技術研究科からなります。

「大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。」と学校教育法に定義されています。大学院の修士課程・博士課程は、次のように定義されております。

【修士課程】 幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力又はこれに加えて高度の専門的な職業を担うための卓越した能力を培う。

【博士課程】 研究者として自立して研究活動を行うに足る、又は高度の専門性が求められる社会の多様な方面で活躍し得る高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養う。

このように、大学院は、社会の多様な方面で活躍できる能力を培うところです。科学技術は、目覚ましい発展をし、経済成長と富をもたらし、政治、経済、文化等のすべての社会的活動の基盤となっています。すなわち、生産性の向上、食料の増産、健康で清潔な生活、さらには人の寿命をのばし、地球上あらゆるところへの移動と情報通信を可能にして来ました。産業革命以前、婦人や子供の炭鉱内労働が行われていたことを考えると、科学技術による生産性の向上が人間の尊厳をもたらしたとも言えます。これはまた、環境破壊、化石燃料の枯渇という問題を引き起こしました。人類の将来を左右するこれらの問題の解決に対しても、科学技術の発達によらざるをえません。科学技術の発達は非常に急激であり、新しい知識も急増しております。そして様々な分野の融合により新しい分野が生まれております。

大学院には、このような先端科学技術を支える人材養成に対する大きな期待が寄せられるようになりました。理工系の学部生の約40%が大学院に進学しています。大学院での教育・研究を通じ、これからの科学技術の発達にも十分対応できる基盤を持った科学技術者が、社会から期待されるようになっていきます。

本学は、「実学尊重」を建学の精神、「科学技術により社会に貢献する人材の養成」を使命とし、初代学長の丹羽保次郎先生の名言「技術は人なり」を教育・研究の理念としております。丹羽先生の名言は、科学技術は人によって創られており、科学技術の成果は、これらを創ってきた人たちのすべてが映しだされていると考えられます。これからの国際化、先端化、融合化の社会で活躍するため、社会で活躍するための技術基盤と研究能力、豊かな学識と国際的なセンスを東京電機大学大学院で養ってください。

専門性と指導力

未来科学研究科委員長 安田 浩

未来科学研究科があなた方に提供する教育の特徴を一言でいえば、それは未来科学部における教育との連続性を失わず、かつ専門性と指導力を高めるように注意深く組み立てられているということです。したがって未来科学研究科の教育のモットーは学部と同じく「プロの能力、豊かな教養」です。

未来科学研究科や未来科学部の教育・研究の対象として、私たち教職員が考えているのは、21世紀における未来型生活空間の創生に必要な科学技術です。技術領域の観点から考えると、未来型生活空間の創生に必要な科学技術は、「人が住む生活の場を構成する建築学」、「人が住む生活の場へ知識をもたらす情報メディア学」及び「人が住む生活の場で交流を促すロボット・メカトロニクス学」の、三つの技術領域からなると私たちは考えています。未来科学研究科の三つの専攻はそれぞれの技術領域に対応しています。科学技術の使命は「人類の豊かな未来を創造すること」でありますから、未来科学研究科の教育・研究はその使命の実現そのものであるということが出来ます。

未来科学研究科では、特に「豊かな教養科目」を設けて、3専攻の学生諸君が共通して受講することを期待しています。これは私たちが、技術領域ごとに異なる技術に対する考え方、いわば領域固有の技術思想について、自分の専攻とは異なる領域の人たちの考え方を理解する心を、あなた方が身につけることを期待してのことです。社会に出て、他分野の人と一緒に仕事をするとき、この心は必ずやあなた方を豊かな交流の場に導いてくれるでしょう。

この要覧は、未来科学研究科で生活するときに、また学園生活を有意義なものにするために必要ないろいろな規則や情報をまとめたもので、言わば学園生活におけるバイブルというべきものです。折にふれてこの要覧を活用され、何か困ったことがあったら、まずこの要覧を参照されることを勧めます。きっと困難を解決することが出来ます。それでも問題が残るときは、2号館3階の事務部を訪ね事務の人に相談してください。

私たち未来科学研究科の教職員は、あなた方が学部生として4年間で学んだいろいろな知識の上に、さらに大学院修士課程の2年間の学習経験を積み重ねることによって、人から信頼される確かな仕事ができる「プロの能力」と、自己の立場を理解し、周囲と調和した行動ができる「豊かな教養」を併せ持つだけでなく、より高度な専門性を持ち、集団を率いる指導力を持った技術者に成長されることを衷心より願うものです。

1 東京電機大学大学院の建学の精神

【実学尊重】

1907年（明治40年）の「電機学校設立趣意書」において、「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」に基づき、「実学尊重」を建学の精神として掲げました。

2 東京電機大学大学院の教育・研究理念

【技術は人なり】

1949年（昭和24年）の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽 保次郎（にわ やすじろう）は、「よい機械を作るにはよい技術者でなければならない」すなわち、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考え方に基づいた「技術は人なり」を教育・研究理念として掲げました。

3 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

【未来科学研究科】

未来科学研究科は、学部教育で培った科学技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的生産活動を促進する生活空間（知的住空間、知的情報空間、知的行動空間）を創生する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とします。

すなわち、人の生活空間環境の発展と維持に、科学技術を適用しかつ共生させることができる、幅広い視野と時代の方向性を見通す先見性と創造性を有する高度専門科学技術者を養成します。

【建築学専攻】

建築学専攻は、学部教育で培った建築技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的住空間を創生する建築学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とします。

すなわち、建築学の「建築計画学・都市計画学」「建築環境学・設備工学」「建築構造学・生産工学」「建築設計」部門の創造性を有する高度専門科学技術者を養成します。

【情報メディア学専攻】

情報メディア学専攻は、学部教育で培った情報メディア技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的情報空間を創生する情報メディア工学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とします。

すなわち、情報メディア学の「メディアデザイン」「ヒューマンコンピュータインタラクション」「ネットワークコンピューティング」部門の創造性を有する高度専門科学技術者を養成します。

【ロボット・メカトロニクス学専攻】

ロボット・メカトロニクス学専攻は、学部教育で培ったメカトロニクス技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的行動空間を創生するロボット・メカトロニクス工学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とします。

すなわち、ロボット・メカトロニクス学の「電気電子工学」「機械工学」「情報工学」「コンピュータ工学」「制御工学」部門の基盤技術を相乗的に統合する創造性を有する高度専門科学技術者を養成します。

4 (財)大学基準協会による認証評価（大学評価）の 受審について

認証評価制度は、2002（平成 14）年の学校教育法の改正に伴い、各大学は、教育・研究水準の向上に資するため、当該大学の教育・研究、組織・運営、施設・設備等の総合的な状況について、一定期間（7年以内）ごとに文部科学大臣の認証を受けた者（認証評価機関）による評価（認証評価）を受審することとなり、2004（平成 16）年に導入されました。

本学は 2009（平成 21）年度に財団法人大学基準協会（認証評価機関）において、認証評価を受審した結果、大学基準に適合していることが認定（認証期間：2010（平成 22）年 4 月 1 日～2017（平成 29）年 3 月 31 日）されました。

今後も更なる教育・研究活動の充実・発展のため、改善・改革を実施し、学生の皆さんの期待に応えられるよう、教育・研究の質の向上に取り組みます。

履修案内

1 学生ポータルサイト（DENDAI – UNIPA、 以下：UNIPA）の活用について

UNIPAとは、インターネットを通じて、学生生活を便利にする様々な機能を利用できるシステムのことです。

具体的には、掲示情報（休講・補講等の授業関係や学生厚生・キャリア支援からのお知らせも含む）・時間割・シラバス（講義要目）・成績照会の閲覧、履修登録、スケジュール管理等の機能があります。

学生生活に必要な情報の取得、履修登録、スケジュール管理等は全て自身で行っていただくこととなります。

UNIPAには、大学から情報が随時発信されていきます（特に、授業開始前から履修登録終了までの期間、また試験前にはより多くの情報が発信されます）。これから皆さんは、UNIPAに1日複数回は必ずアクセスすることを習慣とし、見落としや手続き漏れにより不備なく学生生活が送れるよう注意してください。

UNIPAは下記のURLよりアクセスできます。

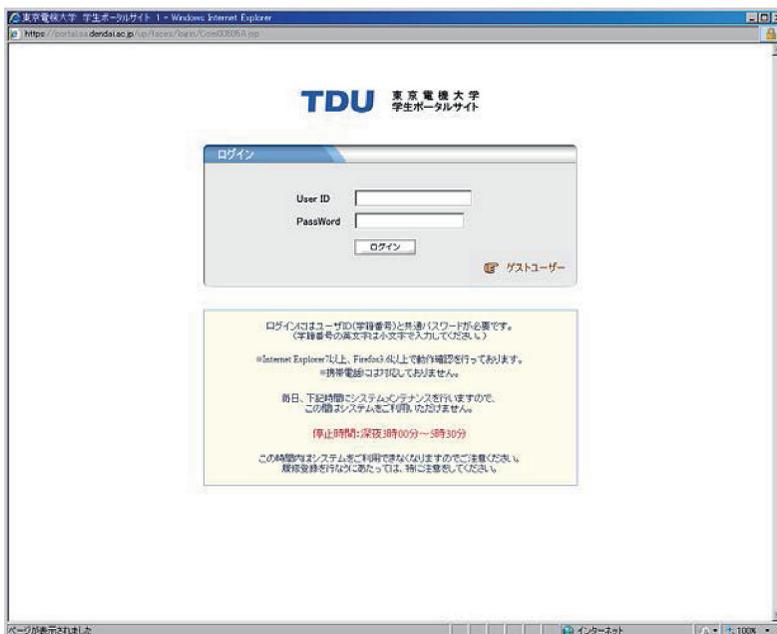
<https://portal.sa.dendai.ac.jp/>

※ログインには本学のネットワークを利用するためのID（学籍番号）およびパスワードが必要です。（例：12tdu99 ※学籍番号の英文字は小文字で入力してください。）

※新入生への初期パスワードは入学時にお知らせいたします。

※Internet Explorer7以上、Firefox3.6以上で動作確認を行っております。携帯電話には対応していません。

(1) ログイン画面



(2) 画面説明

UNIPAのトップ画面について簡単に説明します。

The screenshot shows the TDU student portal homepage. At the top, there is a navigation bar with links for '個人情報', '履修登録', '時間割', '授業', 'アンケート/Q&A', and 'サイトマップ'. Below this is a 'ポータル' section with a calendar for March 2012 and a '授業情報' section. The '授業情報' section shows dates for March 1st and 2nd. To the right, there are several announcement sections: '重要な連絡', '授業に関するお知らせ', '休講・補講連絡', 'キャリア・就職関連情報', and '学生厚生からのお知らせ'. Each section has a '全表示' link. The page footer includes 'Copyright © 2011' and 'インターネット'.

- ①各種メニュー…利用可能なメニューを表示します
- ②サイトマップ…現在利用可能な機能一覧を表示します（次ページ参照）
- ③カレンダー…[スケジュール] ボタンをクリックすることでスケジュール機能を利用することができます
- ④授業情報…履修している授業の情報、カレンダーで登録したスケジュール、大学の行事予定を表示します
- ⑤掲示情報…大学から配信している掲示情報を表示します

(3) 主な機能

サイトマップを選択すると、現在利用可能な機能及びその内容を一覧にて表示できます。

The screenshot shows a web browser window with the URL <https://portal.sa.dendai.ac.jp/up/faces/up/ps/Poa00801A.jsp>. The page title is "東京電機大学 学生ポータルサイト 2 - Windows Internet Explorer". The main content area is titled "サイトマップ" (Site Map) and contains a table listing various portal functions and their descriptions.

サイトマップ	
<input type="checkbox"/> 個人情報情報	
<input type="checkbox"/> 学籍情報について	学籍情報についての説明です。
<input type="checkbox"/> 学籍情報照会	自分の個人情報について、大学に登録されている情報を参照することができます。
<input type="checkbox"/> 履修登録	
<input type="checkbox"/> 履修登録について	<p>履修する科目の登録を行います。 Web履修登録期間が以下のとおりです。</p> <p>登録: 〇月〇日(〇)〇時〇分～〇月〇日(〇)〇時〇分 確認及び修正: 〇月〇日(〇)〇時〇分～〇月〇日(〇)〇時〇分</p> <p>登録期間中は、登録用のメニューが表示されますので、期間中に必ず履修登録を行ってください。 また、毎日深夜にシステムメンテナンスが行われます。メンテナンス中はシステムを利用できませんので注意してください。</p>
<input type="checkbox"/> 時間割	
<input type="checkbox"/> 時間割について	時間割についての説明です。
<input type="checkbox"/> 学生時間割表	履修中の科目の時間割を一覧形式とカレンダー形式で表示します。
<input type="checkbox"/> 教員用時間割	教員の時間割を一覧形式とカレンダー形式で表示します。
<input type="checkbox"/> 授業時間割表	授業時間割を一覧形式とカレンダー形式で表示します。
<input type="checkbox"/> 授業	
<input type="checkbox"/> 授業関係について	授業支援関係の機能についての説明です。
<input type="checkbox"/> 課題提出	教員の作成した課題内容の確認・提出を行います。
<input type="checkbox"/> 授業評価閲覧	授業評価の結果を公開しているシステムへのリンクです。
<input type="checkbox"/> シラバス参照	シラバスを表示します。
<input type="checkbox"/> シラバス参照(1部)	工学部第一部のシラバスを公開しているシステムへのリンクです。
<input type="checkbox"/> アンケート/Q&A	
<input type="checkbox"/> アンケート回答	アンケートの回答を行います。

Copyright 2011 Tokyo Denki University All rights reserved.

※機能が追加される場合は、UNIPAの「掲示情報」にて周知し、各種メニュー及びサイトマップにアップします。

2 学生に対する通知・連絡方法（掲示）について

UNIPA での通知・連絡を主として行うこととし、掲示板への掲示（2号館3階工学部・未来科学部事務部前、学科・実験室前等）は必要に応じて行います。

緊急時の連絡手段としても UNIPA を活用しますので、必ず1日に複数回、UNIPA を確認してください。

なお、本文中の「掲示」の記載も、原則 UNIPA での通知・連絡を指します。

東京電機大学 学生ポータルサイト 2 - Windows Internet Explorer
https://portales.dendai.ac.jp/up/faces/up/ps/Poa00601A.jsp

TDU 学生ポータルサイト

個人別情報 | 履修登録 | 時間割 | 授業 | アンケート/Q&A

ポータル | クラスプロフィール

2012年3月 本日 スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

授業情報

3月1日(木)
該当する授業はありません。

3月2日(金)
進級・卒業・修了発表

お気に入りタイトル

求人検索NAVI(求人検索)
キャリア・就職支援(講座・イベント)

重要なお知らせ

呼び出しを含む重要なお知らせです。必ず確認してください。

- 【修正版 平成24年度 定期健康診断日程のお知らせ】健康相談室 [2012/02/28] **NEW**
- 【総合メディアセンター】ユーザ端末システム(個人領域)のバックアップのお願い 総合メディアセンター [2012/02/25]
- 【TOEIC】2月8日実施の結果照会 キャリア支援・就職担当 [2012/02/17]
- 【学生団体】部室・倉庫移転の「梱包資材(ラベル・ダンボール以外)」について 学生支援センター(学生厚生) [2012/02/09]
- 【学生団体】部室・倉庫移転の「行き先ラベル区分」について 学生支援センター(学生厚生) [2012/02/07]

全21件 [全て表示する](#)

授業に関するお知らせ

授業や履修に関するお知らせです。

お知らせはありません。

全0件

休講・補講連絡

休講・補講・教室変更に関するお知らせです。

お知らせはありません。

全0件

キャリア・就職関連情報

ガイダンスや企業セミナーに関するお知らせです。

- 【TDU企業セミナー開催 2/29-3/12-3/13】キャリア支援・就職担当 [2012/02/28] **NEW**
- 【重要なお知らせ】キャリア支援・就職情報 キャリア支援・就職担当 [2011/10/07]

全2件

学生厚生からのお知らせ

- 平成24年度日本学生支援機構奨学金(定期採用) **NEW**
- 5号館1階「学生ラウンジ」の開館について
- 【学生団体】部室・倉庫の千住キャンパスへの移転について
- 【学生団体】部室・倉庫の千住キャンパスへの移転について
- 学生食堂(東京千住キャンパス)のアルバイト募集について

全6件 [全て表示する](#)

通知・連絡は「掲示情報」に表示します

3 履修登録

授業科目配当表、時間割表をもとに研究指導教員に確認のうえ、支持された形式に従い、履修登録を行ってください。履修登録をしていない科目（無届科目）の受講・受験は許されません。また、単位の認定も行われません。

履修登録の変更、追加は履修登録期間中、履修登録確認および修正期間中に学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA で行って下さい。履修登録の詳細（方法や期間）は、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 及び掲示等で案内します。

4 履修することができる授業科目

履修登録をすることにより、次の授業科目を履修することができます。

① 自分の所属する専攻の授業科目

② 他の専攻の授業科目

研究指導教員が教育研究の指導上必要と認めたときは、自分の所属専攻に配当されていない本学大学院の他専攻（工学研究科・理工学研究科・情報環境学研究科の専攻も含む）の授業科目を履修することができます。

科目数の制限はありませんが、修了要件単位に算入することのできる単位は10単位までです。

③ 豊かな教養科目

未来科学研究科では以下の科目を3専攻共通の「豊かな教養科目」として開講しています。

- 建築学専攻…「デジタル放送論」「情報セキュリティ実践概論」「ITとビジネスモデルAと同B」
- 情報メディア学専攻…「安全都市システム論」「ITとビジネスモデルAと同B」
- ロボット・メカトロニクス学専攻…「安全都市システム論」「デジタル放送論」「情報セキュリティ実践概論」

なお、ロボット・メカトロニクス学専攻においては「豊かな教養科目」より2単位以上修得することが修了要件の1つとなっていますので、注意してください。

④ 学部の授業科目（履修登録時に手続きのこと）

研究指導教員が教育研究の指導上必要と認めた場合は、学部の授業科目を履修することができます。ただし、専攻主任ならびに学部授業科目の担当教員の承認を受けるとともに、工学部・未来科学部事務部で所定の履修登録手続きを行い、未来科学研究科委員長の承認を得る必要があります。

⑤ 特例扱い

以下のものについては、所定の要件を充たせば本学で履修したものと同様に扱われます。研究指導教員と相談のうえ、工学部・未来科学部事務部で手続きを行い、未来科学研究科委員長の承認を得る必要があります。詳細は大学院学則第15条～第17条をお読み下さい。

- (1) 他大学の大学院（東京理工系4大学・首都大学院コンソーシアム）または外国の大学院において履修した授業科目
- (2) 入学前の既修得単位
- (3) 他の大学院または研究所等における研究指導

5 他大学院との単位互換協定に基づく 授業科目履修の扱い

未来科学研究科では、大学間の学術交流を通じて大学院における教育・研究活動のより一層の充実を図るため、首都大学院コンソーシアム、東京理工系4大学と単位互換協定を結んでいます。

本協定により、希望者は所定の手続きをとることにより、各大学院の授業科目を受講することができます。これにより取得した単位は、本学未来科学研究科委員会が教育上有益と認めた場合、その取得した単位のうち10単位を超えない範囲で、未来科学研究科における授業科目の履修により取得したものとしてみなされます（大学院学則第15条）。この協定に基づく履修手続きの詳細は掲示によりお知らせします。科目によっては、有料となる場合があります。

協定大学

- ・ 首都大学院コンソーシアム大学
共立女子大学、順天堂大学、専修大学、玉川大学、中央大学、東京理科大学、東洋大学、日本大学、法政大学、明治大学
- ・ 東京理工系4大学
東京都市大学（旧：武蔵工業大学）、工学院大学、芝浦工業大学

6 昼夜開講制の実施

未来科学研究科では「昼夜開講制」を実施しております。具体的には、授業科目によっては昼間5時制限の時間帯に加え夜間6時限（18：10～19：40）7時限（19：50～21：20）の時間帯を設けています。

7 授業

① 授業科目・単位等

各専攻に開講されている授業科目および単位数は「授業科目配当表」に掲載されている通りです。

② 学 期

前 期 4月1日～9月10日まで

後 期 9月11日～翌年3月31日まで

③ 授業時間

時 限	時 間
1 時限	9 : 00 ~ 10 : 30
2 時限	10 : 40 ~ 12 : 10
3 時限	13 : 10 ~ 14 : 40
4 時限	14 : 50 ~ 16 : 20
5 時限	16 : 30 ~ 18 : 00
6 時限	18 : 10 ~ 19 : 40
7 時限	19 : 50 ~ 21 : 20

④ 休講・補講・集中講義

(1) 休講

学校行事を行う場合、科目担当教員の都合等で授業が休講になる場合は、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 及び掲示等で知らせます。

また、地震などの自然災害により不測の事態が生じた場合は、その都度学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 及び掲示等にて指示します。

(2) 補講

授業回数が不足した場合には、補講を行います。補講の有無は科目担当教員によって指示され、日程は授業や学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 及び掲示等により連絡します。

(3) 集中講義

授業科目によっては、授業期間外に集中して授業を行うことがあります。

なお、詳細な日程については、決まり次第、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 及び掲示等で連絡します。

⑤ 交通ストライキ等の場合の授業の扱い

原則として、当日朝6時のNHKテレビニュースで、首都圏JR各線がストライキまたは事故により不通と報道されたときは、当日の授業は休講となります。

その他の私鉄のみがストライキまたは事故で不通のときは、平常通り授業を行います。

8 シラバス（講義要目）

シラバスには、科目名、配当学年、配当期、単位数、必選区分、担当者名、目的概要、達成目標、関連科目、教科書名、評価方法、テーマ・内容、オフィスアワー、履修上の注意等の授業科目に関する情報が掲載されています。

しっかりと授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成すると共に、常時確認することにより確実に知識を積み重ねていってください。

なお、シラバスは学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA にて閲覧できます。

9 試験及び成績評価

① 試験

試験は、原則としてその授業の終了する学期末あるいは、学年末に行われます。授業科目によっては、平常の成績またはレポート、口頭試問等をもって試験に代えることがあります。

なお、試験は履修登録した授業科目以外受験することはできません。

② 成績評価

2012（平成24）年度入学者

成績はS・A・B・CおよびDの評価で表記されます。

成績評価は次の評点に対応します。

合否	評点	成績評価	GPA ポイント
合格	90～100	S	4
	80～89	A	3
	70～79	B	2
	60～69	C	1
不合格	0～59	D	0
	放棄	—	0

※ R…認定された科目

※ 成績証明書にはD・—は表記されません。

$$\text{※ GPA} = \frac{\text{(各科目の単位数} \times \text{当該科目で得た GPA ポイント) の合計}}{\text{履修した科目の単位数の合計}}$$

※ GPAは小数点第4位を四捨五入した値で、履修中の科目は含めません。

2011（平成23）年度以前入学者

成績はA・B・CおよびDの評価で表記されます。

成績評価は次の評点に対応します。

合否	評点	成績評価
合格	80～100	A
	70～79	B
	60～69	C
不合格	0～59	D
	放棄	—

※ R…認定された科目

※成績証明書にはD・—は表記されません。

③ 成績通知

前年度末までの成績通知は3月頃に、前期末までの成績通知は後期開始前9月に行います。

成績通知の方法、期間は学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA にて知らせます。

10 修了要件

① 修了単位

修士課程に2年以上在学し、各専攻が定める次の要件を満たす所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格しなければなりません。

また、修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果（研究成果報告書）の審査をもって修士論文の審査に代えることができます。

在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1年以上の在学で修了を認めることができます。

【建築学専攻～2012（平成24）年度入学者～】

以下のプログラムから択一必修とし、入学時に研究指導教員との相談により決める。入学時に決定したプログラムは、在学中変更できない。

(1) 高度専門プログラム（研究コース）・職能教育プログラム（スタジオコース）共通科目 建築技術・知識演習Ⅱ（必修）	2単位
(2) 高度専門プログラム（研究コース） 上記（1）の共通科目に加えて、 建築学特別研究Ⅰ（必修）	4単位
建築学特別研究Ⅱ（必修）	4単位
その他の専門科目	20単位以上
（※インターンシップⅤ～Ⅹ、建築学専門研修Ⅰ・Ⅱから2科目以上修得 （選択必修）することを含む）	
(3) 職能教育プログラム（スタジオコース） 上記（1）の共通科目に加えて、 建築学特別設計Ⅰ	2単位
建築学特別設計Ⅱ	2単位
建築学実習Ⅰ	2単位
建築学実習Ⅱ	2単位
建築学実習Ⅲ	2単位
その他の専門科目	18単位以上
（※インターンシップⅤ～Ⅹ、建築学専門研修Ⅰ・Ⅱから2科目以上修得 （選択必修）することを含む）	

【建築学専攻～2011（平成23）年度以前入学者～】

以下のプログラムから択一必修とし、入学時に研究指導教員との相談により決める。入学時に決定したプログラムは、在学中変更できない。

(1) 高度専門プログラム・職能教育プログラム共通科目 建築基礎知識特論（必修）	2単位
(2) 高度専門プログラム 上記（1）の共通科目に加えて、 建築学特別研究・制作Ⅰ（必修）	4単位
建築学特別研究・制作Ⅱ（必修）	4単位
（建築学特別研究・制作Ⅱ（必修）は同Ⅰ（必修）を修得した者のみ履修可）	
その他の専門科目	20単位以上
（※インターンシップⅤ～Ⅹ、建築学専門研修Ⅰ・Ⅱから2科目以上修得 （選択必修）することを含む）	
(3) 職能教育プログラム 上記（1）の共通科目に加えて、 建築プロジェクト演習（必修）	4単位
その他の専門科目	24単位以上
（※インターンシップⅤ～Ⅹ、建築学専門研修Ⅰ・Ⅱから2科目以上修得 （選択必修）することを含む）	

【情報メディア学専攻】

(1) 高度専門プログラム・職能教育プログラム共通科目	
情報メディア学特別演習ⅠA (必修)	2 単位
情報メディア学特別演習ⅠB (必修)	2 単位
情報メディア学特別演習ⅡA (必修)	2 単位
情報メディア学特別演習ⅡB (必修)	2 単位
情報メディア学特別研究ⅠA (必修)	2 単位
情報メディア学特別研究ⅠB (必修)	2 単位
(2) 高度専門プログラム	
上記(1)の共通科目に加えて、	
情報メディア学特別研究ⅡA (必修)	2 単位
情報メディア学特別研究ⅡB (必修)	2 単位
その他の専門科目	14 単位以上
(3) 職能教育プログラム	
上記(1)の共通科目に加えて、	
情報メディア学特別制作A (必修)	2 単位
情報メディア学特別制作B (必修)	2 単位
その他の専門科目	14 単位以上

【ロボット・メカトロニクス学専攻】

(1) ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅰ (必修)	4 単位
(2) ロボット・メカトロニクス学特別研究Ⅱ (必修)	4 単位
(3) 特別輪講ⅠA、特別輪講ⅠB、特別輪講ⅡA、特別輪講ⅡB (必修) 各	1 単位
(4) 専門科目	
(情報駆動システム部門、メカトロニクス部門、ロボット・デザイン部門)	8 単位以上
(5) 専攻共通科目	2 単位以上
(6) 「豊かな教養」科目	2 単位以上

② 修士論文またはこれに代わる研究成果の審査基準

修士論文または特定課題の研究成果は、公表されている本研究科の『人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的』に即し、当該研究領域における修士としての確かな基礎学力を有し、独創性、創造性のある研究能力、実践的問題解決能力等を中心に、次の基準に基づき審査されます。

なお、論文審査及び学位授与審査に透明性、客観性を持たせるため、研究成果の発表は、公聴会形式で行うとともに、最終試験として、研究指導教員を含む審査員による口答試問が行われます。

(1) 当該研究領域において修士としての確かな基礎学力を修得しているか。

- (2) 研究課題の設定が修士として妥当なものであり、研究遂行および論文作成または論文に代わる作品等の制作にあたっての問題意識が明確であるか。
- (3) 設定した研究課題の研究に際し、適切な研究方法、調査・実験を行い、それに基づく具体的な分析・考察がなされているか。
- (4) 当該研究領域において、独自の価値、新規性、有用性、信頼性を有するものとなっているか。
- (5) 問題点的確な整理、把握、判断、解決までの実践的問題解決能力が身につけているか。
- (6) 論文または研究成果物の報告書に関しては、記述（本文、図表、文献、引用など）が適切であり、序文・本文・結論までが首尾一貫した論理構成となっているか。

③ 早期修了条件について

「優れた業績をあげた者」については、1年間もしくは1.5年間の在学期間での修了を認めます。全専攻において修了希望時期の半年前に手続きを行ない、以下の条件を充足した学生について早期修了を認めます。

- (1) 1年間終了時、もしくは1.5年間終了時に修了することを希望していること。
- (2) 入学後の1年間もしくは1.5年間で、各専攻が定める要件を満たす所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文またはこれに代わる研究成果物の審査及び最終試験に合格すること。
- (3) 修士論文またはこれに代わる研究成果物関連科目の成績評価が「A」であること。また、学術論文誌、学会誌等に1編以上の学術論文（査読付）の採録が確定していること。ただし、建築学専攻及び情報メディア学専攻においては、研究成果物を当該分野において公表し、権威ある賞を受けるなど高い評価を得た業績をもって学術論文（査読付）に代えることができます。この場合は、当該専攻主任により、学術論文（査読付）と同等とみなし、それに代えることができると認められる旨の文書提出が必要です。
- (4) 研究指導教員、専攻主任および研究科委員長が早期修了に相応しいと判断した者。

11 学位

未来科学研究科を修了した者については、大学院学則、本学学位規程の定めるところにより、修士の学位が授与されます。

本研究科が授与できる学位の種類およびそれに付記する専攻分野は次のとおりです。

修士課程

建築学専攻	修士（工学）
情報メディア学専攻	修士（工学）
ロボット・メカトロニクス学専攻	修士（工学）

12 修士論文等の取扱い

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出および審査手順については「東京電機大学学位規定」(後掲) およびそれに基づく手順内規等があるので、未来科学研究科委員長、研究指導教員等の指示に従って下さい。

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出スケジュール等については、修了年次に学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 等で確認して下さい。

① 修士論文

論文作成上の注意事項

- (1) 原稿は A 4 判とし、Word 等で作成します。
- (2) 1 ページ目は、表紙とし、22 ページの表紙見本のように作成します。
- (3) 本文、資料は通しページにします。
- (4) 行数、文字数の指定はありませんが左右 2 センチの余白をとります。
- (5) 作成した論文を PDF ファイル化し、元のデータとともに CD-ROM 等で提出します。PDF ファイル化に関する注意事項は 12 月初旬に学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 等で案内します。
- (6) 提出された論文の PDF ファイルはそのまま CD-ROM にまとめるので、丁寧に作成して下さい。

論文予稿の提出 (参考:平成 24 年度の場合 平成 25 年 1 月 25 日 (金) ~ 28 (月) まで)

- ① 原稿は A 4 判 4 枚とし、紙媒体で提出します。(提出の際は、右上に鉛筆でページ数を記入して下さい。)
- ② レイアウトについては「修士論文予稿見本」を参照して下さい。
※予稿は、専攻毎に製本して修士論文および研究成果発表会前に配布します。

論文の提出 (審査用) (参考:平成 24 年度の場合 平成 25 年 1 月 31 日 (木) まで)

- ① 研究指導教員、審査員に 1 部ずつ直接提出して下さい。
- ② 表紙は「修士論文表紙見本」を参照して下さい。

論文の提出 (大学保存用) (参考:平成 24 年度の場合 平成 25 年 2 月 28 日 (木) まで)

最終版 1 部を PDF ファイル化し、CD-ROM 等で工学部・未来科学部事務部に提出して下さい。
※CD-ROM 化して本学図書館で永久保存されます。

論文審査

論文 (審査用) 提出後、研究指導教員、審査員による論文審査 (通常口頭又は文書) が行われます。試問日程については、研究指導教員、審査員の指示を受けて下さい。

修士論文および研究成果発表会（参考：平成 24 年度の場合 平成 25 年 2 月 16 日（土）予定）

発表会は、ポスターセッション形式で開催する予定です。発表者は 1 月より準備を開始して下さい。

パネル 1 台（W180 × H155：両面）を院生 2 名で片面ずつ使用します（A0 用紙を 1 人 2 枚掲示出来ます）ので、パネルに添付するポスターを発表会前々日までに作成して下さい。

1 専攻 1 教室または 2 教室使用し、発表会前日に設営を完了します。

当日は、卒業生等による講演会、院生による論文および研究成果発表会が行われます（12 時～ 19 時 30 分予定）。

② 修士論文に代わる研究成果

研究成果報告書作成上の注意事項

研究成果物や研究成果報告書の提出形態は、研究テーマごとに異なりますので、研究指導教員の指示に従って下さい。

なお、研究成果報告書作成に係わる注意事項は、次のとおりとなります。

- (1) 原稿は A4 判とし、Word 等で作成します。
- (2) 1 ページ目は、表紙とし、22 ページの表紙見本のように作成します。
- (3) 本文、資料は通しページにします。
- (4) 行数、文字数の指定はありませんが左右 2 センチの余白をとります。
- (5) 作成した研究成果報告書を PDF ファイル化し、元データとともに CD-ROM 等で提出します。PDF ファイル化に関する注意事項は 12 月初旬に学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA 等で案内します。
- (6) 提出された研究成果報告書の PDF ファイルはそのまま CD-ROM にまとめるので、丁寧に作成して下さい。

研究成果報告書予稿の提出（参考：平成 24 年度の場合 平成 25 年 1 月 25 日（金）～ 28 日（月）まで）

- ① 原稿は A4 判 4 枚とし、紙媒体で提出します。（提出の際は、右上に鉛筆でページ数を記入して下さい。）
- ② レイアウトについては「研究成果報告書予稿見本」を参照して下さい。
※予稿は、専攻ごとに製本して修士論文および研究成果発表会前に配布します。

研究成果報告書の提出（審査用）（参考：平成 24 年度の場合 平成 25 年 1 月 31 日（木）まで）

- ① 研究指導教員、審査員に 1 部ずつ直接提出して下さい。
- ② 表紙は「研究成果報告書表紙見本」を参照して下さい。

研究成果報告書の提出（大学保存用）（参考：平成 24 年度の場合 平成 25 年 2 月 28 日（木）まで）

最終版 1 部を PDF ファイル化し、CD-ROM 等で工学部・未来科学部事務部に提出して下さい。

※ CD-ROM 化して本学図書館で永久保存されます。

研究成果審査

研究成果報告書（審査用）提出後、研究指導教員、審査員による審査（通常、口頭または文書）が行われます。

試問日程については、研究指導教員、審査員の指示を受けて下さい。

修士論文および研究成果発表会（参考：平成 24 年度の場合 平成 25 年 2 月 16 日（土）予定）

発表会は、ポスターセッション形式で開催する予定です。発表者は 1 月より準備を開始して下さい。

パネル 1 台（W180 × H155：両面）を院生 2 名で片面ずつ使用します（A0 用紙を 1 人 2 枚掲示出来ます）ので、パネルに添付するポスターを発表会前々日までに作成して下さい。

1 専攻 1 教室または 2 教室使用し、発表会前日に設営を完了します。

当日は、卒業生等による講演会、院生による論文および研究成果発表会が行われます（12 時～ 19 時 30 分予定）。

【修士論文予稿見本】

【研究成果報告書予稿見本】

論文題目 (英 文 名)	
学籍番号 研究指導教員	氏名 教授 氏名
本 文	

【修士論文表紙見本】

【研究成果報告書表紙見本】

修 士 論 文 ※ 論文題目 (英 文 名)
東京電機大学大学院未来科学研究科 ○○○専攻修士課程 学籍番号 氏名 研究指導教員 教授 ○○ ○○

※研究成果報告書の場合は、「修士論文」を「研究成果報告書」として下さい。

13 教育職員免許状

① 取得することのできる教育職員免許状

教育職員免許状には学部卒業を基礎資格とする「1種免許状」と大学院修士課程を基礎資格とする「専修免許状」があります。本研究科修士課程の専攻を修了することにより次の免許教科の専修免許を取得することができます。

専攻	取得できる免許状の種類および教科
建築学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」
情報メディア学専攻	高等学校教諭専修免許状「情報」
ロボット・メカトロニクス学専攻	高等学校教諭専修免許状「工業」

② 専修免許状取得に必要な資格・条件等

次の2つの条件を満たさなくてはなりません。

- (1) 修士課程修了者または修士課程に1年以上在学し修士課程修了見込みの資格を有する者。
- (2) すでに、同一教科の「高等学校教諭1種免許状」を取得しているか、または免許状を取得してはいるが取得に必要な単位を取得済みであること。
高等学校教諭1種免許状については、学部の学生要覧を参照して下さい。
※1種免許状に必要な単位を取得していない場合は以下の⑤を参照

③ 専修免許状取得に必要な単位

それぞれの免許教科に係わる科目の単位が24単位以上必要です。

どの授業科目が教科科目の単位として認定されるかは次によります。

- (1) 「工業」の専修免許取得に必要な単位
建築学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻で開設されている授業科目で、科目配当表の教職欄が「工業」である科目の単位は、高等学校教諭専修免許状「工業」を取得するために必要な24単位の中に算入されます。
- (2) 「情報」の専修免許取得に必要な単位
情報メディア学専攻で開設されている授業科目で、科目配当表の教職欄が「情報」である科目の単位は、高等学校教諭専修免許状「情報」を取得するために必要な24単位の中に算入されます。

④ 免許状申請手続

- (1) 一括申請（修士課程修了時に専修免許状を取得）

大学で免許取得希望者の手続きを一括して東京都教育委員会に申請し、修了式の当日に各自へ教育職員免許状を交付します。手続き等の詳細については、教職掲示板の指示に従って下さい。

(2) 個人申請

修士課程修了後に個人で教育職員免許状を取得することもできます。住所地の都道府県教育委員会に問い合わせ、必要な手続きを行って下さい。

⑤ **学部で1種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していない者、又は学部で1種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していても免許状をもっていない者**

学段落階で1種教育職員免許状取得に必要な単位を取得していない者であっても、修士課程で教育職員免許状を取得する道があります。いろいろなケースがありますので、学年始めに必ず工学部・未来科学部事務部窓口にて個別に相談して下さい。

また、学部在学中に適用となっていた免許法が何らかの改正等で変わることがあります。その場合は取得しなければならない科目が増えたりすることもありますので注意して下さい。

14 一級建築士受験資格要件（実務経験） ～ 2012（平成24）年度入学者～

実務要件に関連する科目は下表の「①インターンシップ科目」、「②インターンシップ関連演習科目」、「③インターンシップ関連講義科目」に分類されます。①と②については、「設計・計画・意匠コース」、「構造コース」、「設備コース」の分野別に業務（実務）・演習の内容が変わります。また③については分野別に取得科目が決められています。

各コース（分野）を統一して取得する必要があるため、コース（分野）を横断したインターンシップは、一級建築士の受験資格としては認定されないため注意する必要があります。

実務要件年数別単位取得及び在学期間の条件（制限）	
実務要件 2年	① 14 単位以上、② 8 単位以下、③ 8 単位以下の条件で、①～③の合計 30 単位以上修得。 在学2年以上。
実務要件 1年	① 4 単位以上、② 8 単位以下、③ 8 単位以下の条件で、①～③の合計 15 単位以上修得。 在学1年以上。

実務要件に関連する科目		※（）内は単位数
①の科目 何単位でも実務要件単位に認定可能	<学外インターンシップ> インターンシップV (2)、インターンシップVI (2)、インターンシップVII (4)、 インターンシップVIII (4)、インターンシップIX (4)、インターンシップX (4) <学内インターンシップ> 建築学実習Ⅰ (2)、建築学実習Ⅱ (2)、建築学実習Ⅲ (2)、建築学実習Ⅳ (2) ※職能教育プログラム履修者は「建築学実習Ⅰ～Ⅲ」が必修。また「建築学実習Ⅳ」は履修できない ※高度専門プログラム履修者は「建築学実習Ⅰ～Ⅳ」を履修できます	
②の科目 実務要件単位数は最大8単位が上限	建築学特別設計Ⅰ (2)、建築学特別設計Ⅱ (2)、 ※職能教育プログラム履修者のみ「建築学特別設計ⅠとⅡ」を履修可能でかつ必修科目 建築技術・知識演習Ⅰ (2)、建築技術・知識演習Ⅲ (2) ※「建築技術・知識演習ⅠとⅢ」は選択科目 建築技術・知識演習Ⅱ (2) ※「建築技術・知識演習Ⅱ」はプログラムを問わず必修科目。在学中に2級建築士を取得した場合は単位を認定します	
③の科目 実務要件単位数は最大8単位が上限	設計・計画・意匠コース (8科目)	都市デザイン論 (2)、建築形態論 (2)、建築空間デザイン論 (2)、近代建築論 (2)、地域施設計画論 (2)、環境情報デザイン論 (2)、建築環境心理生理 (2)、建築生産論 (2)
	構造コース (10科目)	安全都市システム論 (2)、空間構造創成論 (2)、建築構造設計論 (2)、構造デザイン認識論 (2)、建築鋼構造論 (2)、建築生産論 (2)、建築ハイブリット構造論 (2)、コンピューターデザイン論 (2)、コンピューターによる骨組解析論 (2)、建築防災工学論 (2)
	設備コース (6科目)	建築空間デザイン論 (2)、環境情報デザイン論 (2)、建築環境形成技術論 (2)、建築環境形成論 (2)、建築環境心理生理 (2)、安全都市システム論 (2)、 ※職能教育プログラム（スタジオコース）履修者は設備分野を選択することはできません

(1) 実務2年を目指す場合の履修例

<高度専門プログラムの例>

①インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2) + 建築学実習Ⅱ(2) + 建築学実習Ⅲ(2) + 建築学実習Ⅳ(2) + インターンシップⅦ(4) + X(4) = 16単位

②インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ(2) + 建築技術・知識演習Ⅱ(必2) + 建築技術・知識演習Ⅲ(2) = 6単位

③インターンシップ関連講義科目

- ・意匠コース：都市デザイン論(2) + 建築形態論(2) + 建築空間デザイン論(2) + 近代建築論(2) = 8単位
- ・構造コース：安全都市システム論(2) + 空間構造創成論(2) + 建築構造設計論(2) + 構造デザイン認識論(2) = 8単位
- ・設備コース：建築空間デザイン論(2) + 環境情報デザイン論(2) + 建築環境形成技術論(2) + 建築環境形成論(2) = 8単位

① 16単位 + ② 6単位 + ③ 8単位 = 30単位 (>=30単位)

<職能教育プログラムの例>

①インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2) + 建築学実習Ⅱ(2) + 建築学実習Ⅲ(2) + インターンシップⅦ(4) + Ⅷ(4) = 14単位

②インターンシップ関連演習科目

建築学特別設計Ⅰ(2) + 建築学特別設計Ⅱ(2) + 建築技術・知識演習Ⅰ(2) + 建築技術・知識演習Ⅱ(必2) = 8単位

③インターンシップ関連講義科目

- ・意匠コース：都市デザイン論(2) + 建築形態論(2) + 建築空間デザイン論(2) + 近代建築論(2) = 8単位
- ・構造コース：安全都市システム論(2) + 空間構造創成論(2) + 建築構造設計論(2) + 構造デザイン認識論(2) = 8単位

* 職能教育プログラムは設備分野を選択することはできません。

① 14単位 + ② 8単位 + ③ 8単位 = 30単位 (>=30単位)

(2) 実務1年を目指す場合の履修例

<高度専門プログラムの例>

①インターンシップ科目

建築学実習Ⅰ(2) + インターンシップⅤ(2) = 4単位

②インターンシップ関連演習科目

建築技術・知識演習Ⅰ(2) + 建築技術・知識演習Ⅱ(必2) = 4単位

③インターンシップ関連講義科目

- ・ 意匠コース：都市デザイン論 (2) + 建築形態論 (2) + 建築空間デザイン論 (2) + 近代建築論 (2) = 8 単位
- ・ 構造コース：安全都市システム論 (2) + 空間構造創成論 (2) + 建築構造設計論 (2) + 構造デザイン認識論 (2) = 8 単位
- ・ 設備コース：建築空間デザイン論 (2) + 環境情報デザイン論 (2) + 建築環境形成技術論 (2) + 建築環境形成論 (2) = 8 単位

① 4 単位 + ② 4 単位 + ③ 8 単位 = 16 単位 (> 15 単位)

<職能教育プログラムの例>

①インターンシップ科目

建築学実習 I (2) + 建築学実習 II (2) + 建築学実習 III (2) = 6 単位

②インターンシップ関連演習科目

建築学特別設計 I (2) + 建築学特別設計 II (2) + 建築技術・知識演習 II (必 2) = 6 単位

③インターンシップ関連講義科目

- ・ 意匠コース：都市デザイン論 (2) + 建築形態論 (2) = 4 単位
 - ・ 構造コース：安全都市システム論 (2) + 構造デザイン認識論 (2) = 4 単位
- * 職能教育プログラムは設備分野を選択することはできません。

① 6 単位 + ② 6 単位 + ③ 4 単位 = 16 単位 (> 15 単位)

15 一級建築士受験資格要件（実務経験） ～ 2011（平成 23）年度以前入学者～

未来科学研究科建築学専攻の学生で一級建築士試験の受験資格要件である実務経験 2 年または 1 年を取得する場合には、下記の条件で単位を取得する必要があります。

(1) 実務経験 2 年の場合

- ・ 合計 30 単位以上
- ・ 在学 2 年以上
- ・ インターンシップ V～X の中から任意選択：計 14 単位以上
 - * インターンシップ V～X の業務内容は、
 - 1) 設計・計画・意匠コース、2) 構造コース、3) 設備コースのいずれかで統一する必要があります。
 - * コースを横断したインターンシップは基本的に認められません。
- ・ 必要単位数合計 30 単位から、インターンシップの合計取得単位数を差し引いた分を、以下のインターンシップに関連する科目群の中から取得する必要があります。

- * 例えば、最低の 14 単位なら残り 16 単位、最大の 20 単位なら残り 10 単位
- ・ただし選択する科目は、必ずインターンシップのコースと合致する必要があります。
- * コースの選択はインターンシップの内容に付随します。
- * 複数のコースを重複した認定は行えません。(構造と設備など)
- * コースを横断しての取得で残り単位数を満たしても、認定はされません。

<インターンシップに関連する科目群>

1) 設計・計画・意匠コース

建築プロジェクト演習、特別演習Ⅰ、特別演習Ⅱ、建築形態論

構造デザイン認識論、都市景観デザイン論、保存と再生論、建築環境形成技術論

2) 構造コース

建築プロジェクト演習、特別演習Ⅰ、特別演習Ⅱ、空間構造創成論

建築構造設計論、構造デザイン認識論、保存と再生論

3) 設備コース

建築プロジェクト演習、特別演習Ⅰ、特別演習Ⅱ、建築環境形成技術論

建築形態論、都市景観デザイン論、保存と再生論

*** 建築プロジェクト演習は、職能教育プログラム選択者のみ履修可能**

(2) 実務経験 1 年の場合

- ・合計 15 単位以上
- ・在学 1 年以上
- ・インターンシップV～Xの中から任意選択：計 4 単位以上
- * インターンシップV～Xの業務内容は、
 - 1) 設計・計画・意匠コース、2) 構造コース、3) 設備コース
 のいずれかで統一する必要があります。
- * コースを横断したインターンシップは基本的に認められません。
- ・必要単位数合計 15 単位から、インターンシップの合計取得単位数を差し引いた分を、以下のインターンシップに関連する科目群の中から取得する必要があります。
- * 例えば、最低の 4 単位なら残り 11 単位、最大の 20 単位なら不要
- ・ただし選択する科目は、必ずインターンシップのコースと合致する必要があります。
- * コースの選択はインターンシップの内容に付随します。
- * 複数のコースを重複した認定は行えません。(構造と設備など)
- * コースを横断しての取得で残り単位数を満たしても、認定はされません。

<インターンシップに関連する科目群>

1) 設計・計画・意匠コース

建築プロジェクト演習、特別演習Ⅰ、特別演習Ⅱ、建築形態論

構造デザイン認識論、都市景観デザイン論、保存と再生論、建築環境形成技術論

2) 構造コース

建築プロジェクト演習、特別演習Ⅰ、特別演習Ⅱ、空間構造創成論

建築構造設計論、構造デザイン認識論、保存と再生論

3) 設備コース

建築プロジェクト演習、特別演習Ⅰ、特別演習Ⅱ、建築環境形成技術論
建築形態論、都市景観デザイン論、保存と再生論

*** 建築プロジェクト演習は、職能教育プログラム選択者のみ履修可能**

16 先端科学技術研究科博士課程（後期）進学

先端科学技術研究科博士課程（後期）に進学を希望する者は、できるだけ多くの科目を幅広く履修しておくことが望めます。

なお、被推薦資格等については、先端科学技術研究科博士課程（後期）学内推薦入試募集要項を参照して下さい。

17 留学

本学では、外国の大学またはこれに相当する機関に、在学中1年間を原則として（在学年数に算入できます）、授業科目の履修または、研究指導を受けるために留学することを制度として認めています。これは、事前に所定の申請手続きを行ない、研究科委員会で承認されなければなりません。

正規課程の留学

協定校：アイオワ大学（アメリカ）、募集は後期に掲示にて行ないます。

認定校：留学希望者本人が、外国の大学院等から留学または受入れ許可をとり、本学大学院がこれを許可し、留学する制度です。

語学研修の留学

協定校：コロラド大学（アメリカ）、募集は4月頃掲示等で行ないます。

本学大学院生専用の英語短期研修プログラムで、本学の夏休みに開講します。所定の成績を修めれば「科学英語Ⅰ」の単位として認定されます。

留学に関する相談

国際センターで申込受付及び相談に応じます。

留学準備

- ・ 留学予定先の大学院については、大学院要覧等の関係資料を取り寄せるなどして、充分調査して下さい。
- ・ 入学許可証は各自で取寄せます。これは留学にあたって最も大切なものであり、査証申請

には欠かせない書類です。

- ・協定校留学（アイオワ大学）の場合には、大学が入学許可証を取寄せます。

出願

外国留学願に必要な書類を添えて国際センターに提出して下さい。

願書受付等については、指定された出願期間があるので注意して下さい。

認定校留学については、留学計画に応じ、随時受け付けます。

帰国後の単位認定

単位認定希望者は、帰国後直ちに単位認定願を国際センターに提出して下さい。

留学前の履修計画書に従い留学先大学院で修得した単位は、他大学院で修得し認定された単位を含め、10単位までを研究科委員会の審議を経て本学の単位として認定します。

留学報告書の提出

帰国後は、直ちに留学報告書を国際センターに提出して下さい。

国際センター（場所：東京千住キャンパス 2号館 3階）

TDUの特色を活かした国際交流の実践に向けて、学生や教職員の人的な交流をさらに進めるために、あるときは留学生の日常的な相談相手として、またあるときは日本人学生の海外留学のお手伝い役として、さまざまな支援を行っているのが国際センターです。“Sharing Views & Seeking Ways”という合言葉のもと、国際センターはみなさんのチャレンジを応援します。

国際センター千住ラウンジ（場所：東京千住キャンパス 1号館 4階 10時～17時/月～金）

「国際センター千住ラウンジ」では、常駐スタッフに留学や大学生活について相談できるだけでなく、留学生と日本人学生同士が交流できるスペースを設けています。是非お気軽にお越し下さい。

18 連携大学院協定研究所

本学大学院では、教育研究の充実を図るとともに、学術及び科学技術の発展に寄与することを目的とし、大学院生の研究指導を以下の研究機関と連携して行っています。

研究機関名
独立行政法人 理化学研究所
独立行政法人 産業技術総合研究所
財団法人 電力中央研究所
財団法人 国際超電導産業技術研究センター 超電導工学研究所
独立行政法人 宇宙航空研究開発機構
独立行政法人 海上技術安全研究所
独立行政法人 情報通信研究機構
独立行政法人 物質・材料研究機構
日本放送協会放送技術研究所

授業科目配当表及び研究指導教員等 (専門分野と指導研究テーマ)

建築学専攻

Architecture and Building Engineering

部門	科目名	開講年度 開講区分		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	常勤 非常勤	担当者	備考	教職	建築士			
		H24	H25										形態	意匠	設備 構造	
専門研究	建築学特別設計Ⅰ	随時	随時	1	2	選(※)	1	通年	常 常 常	朝山 秀一 秋田 剛 射場本 忠彦	修士課程を修了するためには、「高度専門プログラム(研究コース)」又は「職能教育プログラム(スタジオコース)」のいずれかを択一必修として、履修、合格しなければならない。入学時に決定したプログラム(コース)は、在学中変更できない。	工業	開演	○	○	○
	建築学特別設計Ⅱ		随時	1	2	選(※)	2	通年	常 常 常	今川 憲英 宇田川 邦明 立花 正彦		工業	開演	○	○	○
	建築学特別研究Ⅰ	随時	随時	2	4	選(※)	1	通年	常 常 常	土田 寛 積田 洋 松岡 恭子	※高度専門プログラム(研究コース)履修者は「建築学特別研究Ⅰ・Ⅱ」の修得が必要である。また、「建築学特別設計Ⅰ・Ⅱ」は履修できない。	工業				
	建築学特別研究Ⅱ		随時	2	4	選(※)	2	通年	常 常 常	百田 真史 山田 あすか 山本 圭介 渡邊 朗子 渡邊 昭彦	※職能教育プログラム(スタジオコース)履修者は「建築学特別設計Ⅰ・Ⅱ」の修得が必要である。また、「建築学特別研究Ⅰ・Ⅱ」は履修できない。	工業				
空間 デザイン	建築空間デザイン論	●		1	2	選	1・2	半期(後)	常	積田 洋		工業	開講	○	○	
	建築形態論		●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	山本 圭介		工業	開講	○		
	都市デザイン論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	土田 寛		工業	開講	○		
	地域施設計画論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	山田 あすか		工業	開講	○		
	近代建築論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	横手 義洋		工業	開講	○		
工学 デザイン	環境情報デザイン論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	渡邊 朗子		工業	開講	○	○	
	建築鋼構造論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	宇田川 邦明		工業	開講			○
	建築ハイブリット構造論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	立花 正彦		工業	開講			○
	建築構造設計論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	宇田川 邦明		工業	開講			○
	コンピューターによる骨組解析論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	西田 明美			開講			○
建築環境形成技術論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	百田 真史		工業	開講			○	
専攻 共通科目	建築環境心理生理	●		1	2	選	1・2	半期(前)	常	秋田 剛		工業	開講	○	○	
	建築環境形成論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	射場本 忠彦		工業	開講	○	○	
	建築生産論	○		1	2	選	1・2	半期(後)	非	兼光 知巳		工業	開講	○	○	
	コンピューターデザイン論		●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	朝山 秀一		工業	開講	○	○	
	建築防災工学論		●	1	2	選	1・2	半期(後)	非	安部 武雄			開講			○
	安全都市システム論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	片山 恒雄			開講			○
	空間構造創成論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	非△	登坂 宣好			開講			○
	構造デザイン認識論	○		1	2	選	1・2	半期(後)	常	今川 憲英		工業	開講			○
	統計解析法		●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	宮崎 桂						○
	建築学実習Ⅰ	●	●	2	2(※)	選	1	半期(前)	常 常 常 常	朝山 秀一 秋田 剛 射場本 忠彦 今川 憲英	※職能教育プログラム(スタジオコース)履修者は「建築学実習Ⅰ～Ⅲ」を履修、合格しなければならない。	工業	イン	○	○	○
	建築学実習Ⅱ	●	●	2	2(※)	選	1	半期(後)	常 常 常 常	宇田川 邦明 立花 正彦 土田 寛 積田 洋	※高度専門プログラム(研究コース)履修者は「建築学実習Ⅰ～Ⅳ」が履修可能。	工業	イン	○	○	○
	建築学実習Ⅲ		●	2	2(※)	選	2	半期(前)	常 常 常 常 非	松岡 恭子 山田 あすか 山本 圭介 横手 義洋 渡邊 朗子 渡邊 昭彦	「建築学実習Ⅰ」を担当 「建築学実習Ⅰ」を担当 「建築学実習Ⅱ」を担当	工業	イン	○	○	○
	建築学実習Ⅳ		●	2	2	選	2	半期(後)	非 非 非 非 非	長坂 政英 角館 蕃章 古賀 美紀 小林 敦 遠田 敦 劔持 尚樹	「建築学実習Ⅱ」を担当 「建築学実習Ⅰ・Ⅱ」を担当 「建築学実習Ⅰ・Ⅱ」を担当 「建築学実習Ⅰ・Ⅱ」を担当	工業	イン	○	○	○
	建築技術・知識演習Ⅰ	○	○	1	2	選	1	半期(前)	常 常 常 常	朝山 秀一 秋田 剛 射場本 忠彦 今川 憲英		工業	開演	○	○	○
建築技術・知識演習Ⅱ	○	●	1	2	必	1	半期(後)	常 常 常 常	宇田川 邦明 立花 正彦 土田 寛 積田 洋	在学中に2級建築士を取得した場合は、「建築技術・知識演習Ⅱ」の単位を認定する。	工業	開演	○	○	○	
建築技術・知識演習Ⅲ		○	1	2	選	2	半期(前)	常 常 常 非	松岡 恭子 山田 あすか 山本 圭介 横手 義洋 渡邊 朗子 渡邊 昭彦 小倉 高 二宮 淳浩		工業	開演	○	○	○	

部門	科目名	開講年度		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	常勤 非常勤	担当者	備考	教職	建築士			
		H24	H25										形態	意匠	構造	
専攻 共通科目	インターンシップV	○	○	随時	2	選	1	四半期(前前) 四半期(後前)	常	朝山 秀一	「インターンシップV～X」および「建築学専門研修I・II」の中から2科目以上必ず修得すること。 (一級建築士受験資格要件の実務経験2年を取得する場合は、「インターンシップV～X」および「建築学実習I～IV」の中から計14単位以上修得する必要がある。詳細は、P.25～27(一級建築士受験資格要件)にて確認のこと。)		イン	○	○	○
	インターンシップVI	○	○	随時	2	選	1	四半期(前後) 四半期(後後)	常	秋田 剛		イン	○	○	○	
	インターンシップVII	○	○	随時	4	選	1	四半期(後前)	常	射場本 忠彦		イン	○	○	○	
	インターンシップVIII	○	○	随時	4	選	1	四半期(後後)	常	今川 憲英		イン	○	○	○	
	インターンシップIX		○	随時	4	選	2	四半期(前前)	常	宇田川 邦明		イン	○	○	○	
	インターンシップX		○	随時	4	選	2	四半期(前後)	常	立花 正彦		イン	○	○	○	
	建築学専門研修I	○	○	随時	2	選	1・2	半期(前)	常	土田 寛洋		イン	○	○	○	
	建築学専門研修II	○	○	随時	2	選	1・2	半期(後)	常	積田 洋		イン	○	○	○	
「豊かな教養」科目	デジタル放送論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	安田 浩						
	情報セキュリティ実践概論	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	工藤 浩輔						
	ITとビジネスモデルA	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	安田 浩						
	ITとビジネスモデルB	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	河野 省二						
研究科 共通科目	科学英語I	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	宮武 信春						
	MOT概論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	宮武 信春						
									常	朝山 秀一	コロロド大学英語短期研修 専攻主任が担当する e-campus科目のため、理工学研究科 授業時間に合わせて開講					
									常	富田 英雄						

注1)開講区分欄「●○」=昼夜開講、「○」=昼間開講、「●」=夜間開講、「随時」=随時開講

注2)常勤非常勤欄「△」=客員教員

注3)イン…インターンシップ科目(実務経験2年の場合は14単位以上、実務経験1年の場合は4単位以上修得のこと。)

開演…インターンシップ関連演習科目(上限8単位)、開講…インターンシップ関連講義科目(上限8単位)

部門	科目名	開講年度		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	常勤 非常勤	担当者	備考	教職	
		H24	H25										
専門研究	建築学特別研究・制作Ⅰ	●	○	2	4(※)	選	1	通年	常	朝山 秀一 射場本 忠彦 今川 憲英	修士課程を修了するためには、「高度専門プログラム」又は「職能教育プログラム」のいずれかを択一必修として、履修合格しなければならない。入学時に決定したプログラムは、在学中変更できない。		
	建築学特別研究・制作Ⅱ	○	○	2	4(※)	選	2	通年	常	宇田川 邦明 立花 正彦 積田 洋			
	建築プロジェクト演習	○	○	2	4(※)	選	2	通年	常	山本 圭介 渡邊 剛		※高度専門プログラム履修者は「建築学特別研究・制作Ⅰ・Ⅱ」の修得が必要である。	工業
	特別演習Ⅰ	○	○	2	4	選	1	半期(前)	常	秋田 剛 土田 寛 松岡 恭子		※職能教育プログラム履修者は「建築プロジェクト演習」の修得が必要である。	
	特別演習Ⅱ	○	○	2	4	選	1	半期(後)	常	百田 真史 山田 あすか 渡邊 朗子		「建築学特別研究・制作Ⅱ」は、「建築学特別研究・制作Ⅰ」修得者のみ履修可能。	工業
空間 デザイン	建築空間デザイン論	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	積田 洋		工業	
	建築空間計画論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	大野 隆造		工業	
	建築形態論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	山本 圭介		工業	
	地域施設計画論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	山田 あすか		工業	
	都市計画論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	土田 寛		工業	
工学 デザイン	建築・都市空間解析論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	山田 あすか	平成25年度開講せず。	工業	
	都市景観デザイン論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	松岡 恭子	平成25年度開講せず。	工業	
	建築環境心理生理	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	秋田 剛		工業	
	建築環境形成論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	射場本 忠彦		工業	
	建築環境形成技術論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	百田 真史		工業	
	建築鋼構造論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	宇田川 邦明		工業	
	建築ハイブリッド構造論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	立花 正彦		工業	
	建築生産論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	兼光 知巳		工業	
	建築構造設計論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	宇田川 邦明		工業	
	数値建築振動論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	朝山 秀一	平成25年度開講せず。	工業	
専攻 共通科目	近代建築家論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	横手 義洋		工業	
	保存と再生論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	今川 憲英	平成25年度開講せず。	工業	
	建築防災工学論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	非	安部 武雄			
	安全都市システム論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	片山 恒雄			
	空間構造創成論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非△	登坂 宣好			
	コンピューターデザイン論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	渡邊 朗子			
	構造デザイン認識論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	今川 憲英		工業	
	統計解析法	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	宮崎 桂			
	建築基礎知識特論	○	○	2	2	必	1	半期(後)	常	朝山 秀一 秋田 剛 射場本 忠彦 今川 憲英 宇田川 邦明 立花 正彦 土田 寛 積田 洋 松岡 恭子 百田 真史 山田 圭介 山本 圭介 横手 義洋 渡邊 朗子 渡邊 昭彦 小倉 高 淳浩	在学中に2級建築士を取得した場合は、「建築基礎知識特論」の単位を認定する。		
	インターンシップⅤ	○	○	随時	2	選	1	四半期(前前) 四半期(後前)	常	朝山 秀一 秋田 剛			
	インターンシップⅥ	○	○	随時	2	選	1	四半期(前後) 四半期(後後)	常	射場本 忠彦 今川 憲英 宇田川 邦明			
	インターンシップⅦ	○	○	随時	4	選	1	四半期(前後)	常	立花 正彦 土田 寛			
	インターンシップⅧ	○	○	随時	4	選	1	四半期(後後)	常	積田 洋 松岡 恭子			
	インターンシップⅨ	○	○	随時	4	選	2	四半期(前前)	常	百田 真史 山田 圭介			
	インターンシップⅩ	○	○	随時	4	選	2	四半期(前後)	常	山本 圭介 渡邊 朗子			
建築学専門研修Ⅰ	○	○	随時	2	選	1	半期(前)	常	渡邊 昭彦				
建築学専門研修Ⅱ	○	○	随時	2	選	1	半期(後)	常	積田 洋 松岡 恭子				
「豊かな教養」科目	デジタル放送論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	安田 浩 工藤 浩輔			
	情報セキュリティ実践概論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	安田 浩 河野 浩二 長谷川 長一			
	ITとビジネスモデルA	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	宮武 信春			
ITとビジネスモデルB	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	宮武 信春				
研究科 共通科目	科学英語Ⅰ	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	朝山 秀一	コロラド大学英語短期研修専攻主任が担当するe-campus科目のため、理工学研究科授業時間に合わせて開講		
	MOT概論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	富田 英雄			

注1)開講区分欄 「●○」=昼夜開講、「○」=昼間開講、「●」=夜間開講、「随時」=随時開講
注2)常勤非常勤欄 「△」=客員教員

研究指導教員等の専門分野と指導研究テーマ

《建築学専攻》

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
秋 田 剛 1 号 館 10703B (3314)	音環境 環境心理生理	聴覚と視覚の情報認知における複合効果に関する研究 聴きとりやすい音情報の物理的・空間的特性に関する研究 人間の認知特性を考慮した音・視環境計画に関する研究
朝 山 秀 一 ☆ 1 号 館 10716B (3308)	建築振動学 建築分野へのコンピュータ応用	建築構造物の地震応答 自然の形態システムを用いた空間構造の創生 フラクタル理論を応用した建築骨組の研究 都市の商業地域の成長と衰退シミュレーション Web を用いた構造設計支援システム
射 場 本 忠 彦 1 号 館 10715B (3305)	建築環境工学の中の熱環境 建築設備	氷蓄熱空調システムに関する研究 氷水スラリーによる地域冷房に関する研究 窓際環境の快適性と省エネルギーに関する研究 大温度差・変動微風空調に関する研究
今 川 憲 英 1 号 館 10712B (3307)	構造デザイン 保存と再生 デザイン認識 耐震システム ハイブリッド構造	建築の保存と再生とデザイン理論の研究 素材を利用して建物の寿命を2倍にする研究 異種素材・異種架構による新ハイブリッド構造の研究 定量的デザイン認識と評論に関する研究
宇 田 川 邦 明 1 号 館 10711B (3304)	建築構造工学	鋼構造物の地震時挙動 鋼構造部材の弾塑性挙動 鋼構造接合部の破断形式と破断耐力 制震・免震装置を用いた鋼構造物の振動制御 金属系新素材の構造物への適用
立 花 正 彦 1 号 館 10713B (3302)	建築構造 建築生産	鉄骨鉄筋コンクリート構造の力学的性状 コンクリート充填鋼管構造の力学的性状 木質構造に関する開発研究 コンクリート系構造の耐震補強と補修

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
土 田 寛 1 号 館 10704B (3312)	都市デザイン プロジェクトデザイン 景観デザイン 都市計画	プロジェクトデザインに関するプロセスの構築とコンセンサスの形成 アーバンデザインセンターのプログラムと都市空間モデル 地域文脈の解析（資源の発掘と意味づけ）と地域整備コンセプトの形成 都市のかたちと都市計画（形態規制とコントロール）・グランドデザインとの関係 パブリックスペースに内在する空間構成（機能・用途別）把握と社会的行動
積 田 洋 1 号 館 10701B (3339)	建築計画 空間計画 設計計画	街路・都市景観の研究 学校建築の開口景と空間配置計画の研究 ランドスケープと建築構成の研究 建築の内部空間構成の研究 空間の認知把握に関する研究 歴史的建築の空間構成の研究
松 岡 恭 子 1 号 館 10603B (3320)	建築デザイン アーバンデザイン 土木デザイン	インフラと都市景観に関する研究 土木構造物のデザインと都市景観の研究 官民境界における建築デザイン論
宮 崎 桂 4 号 館 40903B (3912)	位相幾何学 結び目理論	
百 田 真 史 1 号 館 10604A (3321)	建築環境工学 建築設備	空調システムの省エネルギー化に関する研究 エネルギーの面的利用に関する研究
山 本 圭 介 1 号 館 10708B (3310)	建築設計 建築意匠 建築計画	都市居住空間の研究 建築空間の形態的研究 建築空間における部位別デザイン手法の研究
山 田 あ す か 1 号 館 10705B (3311)	建築計画 環境行動	医療・福祉建築空間での空間構成や人々の行動特性、居場所の選択に関する研究 小児の療養環境評価基準に関する研究 こどもや高齢者の生活の場としての都市環境のあり方に関する研究

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
横手義洋 1号館 10707B (3338)	建築史 建築保存	歴史的建造物の活用 西洋建築史・近代建築史研究 建築美学／建築論
渡邊昭彦 1号館 10603A (3340)	建築計画 建築設計 地区計画	生涯学習施設の計画研究 学校複合施設（コミュニティスクール）計画研究 建築空間の分かり易さの計画研究 特別養護老人施設の活気・落ち着き計画研究
渡邊朗子 1号館 10604B (3322)	建築空間の計画 建築空間の設計 情報技術システムの建築 への応用	ロボットと共生する建築空間の計画技術に関する研究 知的活動を支援するオフィス環境に関する研究 空間生命化・知能化デザインの研究

☆：専攻主任

※客員教授：登 坂 宣 好

情報メディア学専攻

Information Systems and Multimedia Design

部門	科目名	開講年度 開講区分		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	常勤 非常勤	担当者	備考	教職
		H24	H25									
専門研究	情報メディア学特別演習ⅠA	随時	随時	2	2	必	1	半期(前)	常 常	高橋 時市郎 宮添 輝美	平成24年度担当者	情報
	情報メディア学特別演習ⅠB	随時	随時	2	2	必	1	半期(後)	常 常	齊藤 剛 佐々木 良一	平成24年度担当者	情報
	情報メディア学特別演習ⅡA	随時	随時	2	2	必	2	半期(前)	常 常	高橋 時市郎 宮添 輝美	平成24年度担当者	情報
	情報メディア学特別演習ⅡB	随時	随時	2	2	必	2	半期(後)	常 常	齊藤 剛 佐々木 良一	平成24年度担当者	情報
	情報メディア学特別研究ⅠA	随時	随時	2	2	必	1	半期(前)	常 常	小坂 直敏 川澄 正史		情報
	情報メディア学特別研究ⅠB	随時	随時	2	2	必	1	半期(後)	常 常	絹川 博之 小山 裕徳		情報
	情報メディア学特別研究ⅡA	随時	随時	2	2	選(※)	2	半期(前)	常 常 常	齊藤 剛 佐々木 良一 高橋 時市郎	※高度専門プログラム履修者は「情報メディア学特別研究ⅡA」と「情報メディア学特別研究ⅡB」の履修が必要である。	情報
	情報メディア学特別研究ⅡB	随時	随時	2	2	選(※)	2	半期(後)	常 常 常	高橋 時市郎 信二 克人 増田 英孝		情報
	情報メディア学特別制作A	随時	随時	2	2	選(※)	2	半期(前)	常 常 常	宮添 輝美 敬士 浩	※職能教育プログラム履修者は「情報メディア学特別制作A」と「情報メディア学特別制作B」の履修が必要である。	情報
情報メディア学特別制作B	随時	随時	2	2	選(※)	2	半期(後)	常 常 常	矢島 敬士 安田 浩		情報	
メディア	音メディア特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	小坂 直敏		情報
	コンピュータグラフィックス特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	齊藤 剛		情報
	ビジュアルコンピューティング特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	高橋 時市郎		情報
	メディア応用特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常	鉄谷 信二		情報
	言語メディア特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	絹川 博之		情報
	デジタル放送論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常 非	安田 浩 工藤 浩輔		情報
	造形・デザイン特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	谷口 守孝		情報
	認知心理学特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	非	黒須 正明		情報
情報	人間情報システム特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	川澄 正史		情報
	ビジネス情報システム特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	矢島 敬士		情報
	ソフトウェアアーキテクチャ特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	増田 英孝		情報
	データベース特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	安達 淳		情報
	情報セキュリティ特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	佐々木 良一		情報
	ユビキタスネットワーク特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)			平成24・25年度開講せず	情報
	インテリジェントコンピューティング特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	中島 克人		情報
	オペレーティングシステム特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	木下 俊之		情報
	生体情報学特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	小山 裕徳	平成25年度は後期に開講	情報
	教育情報工学特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	宮添 輝美		
専攻 共通科目	インターンシップ	○	○	随時	2	選	1・2	随時	常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常 常	小坂 直敏 川澄 正史 絹川 博之 小山 裕徳 齊藤 剛 佐々木 良一 高橋 時市郎 鉄谷 信二 中島 克人 増田 英孝 宮添 輝美 敬士 浩 安田 浩		
「豊かな教養」科目	安全都市システム論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	非	片山 恒雄		
	ITとビジネスモデルA	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常	宮武 信春		
	ITとビジネスモデルB	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常	宮武 信春		
研究科 共通科目	科学英語Ⅰ	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常	絹川 博之	コロラド大学英語短期研修 専攻主任が担当する	
	MOT概論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常	富田 英雄	e-campus科目のため、理工学研究 科授業時間に合わせて開講	

※ 修士課程を修了するためには、「高度専門プログラム」または「職能教育プログラム」のいずれかを選び必修として、履修合格しなければならない。
注)開講区分欄 「●○」=昼夜開講、「○」=昼間開講、「●」=夜間開講、「随時」=随時開講

部門	科目名	開講年度 開講区分		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	常勤 非常勤	担当者	備考	教職
		H24	H25									
専門研究	情報メディア学特別演習ⅠA	随時	随時	2	2	必	1	半期(前)	常 高橋 時市郎	高橋 時市郎	平成24年度担当者	情報
	情報メディア学特別演習ⅠB	随時	随時	2	2	必	1	半期(後)	常 宮添 輝美	宮添 輝美	平成24年度担当者	情報
	情報メディア学特別演習ⅡA	随時	随時	2	2	必	1	半期(前)	常 齊藤 剛	齊藤 剛	平成24年度担当者	情報
	情報メディア学特別演習ⅡB	随時	随時	2	2	必	1	半期(後)	常 佐々木 良一	佐々木 良一	平成24年度担当者	情報
	情報メディア学特別研究ⅠA	随時	随時	2	2	必	1	半期(前)	常 高橋 時市郎	高橋 時市郎	平成24年度担当者	情報
	情報メディア学特別研究ⅠB	随時	随時	2	2	必	1	半期(後)	常 宮添 輝美	宮添 輝美	平成24年度担当者	情報
	情報メディア学特別研究ⅡA	随時	随時	2	2	選(※)	1	半期(前)	常 齊藤 剛	齊藤 剛	※高度専門プログラム履修者は「情報メディア学特別研究ⅡA」と「情報メディア学特別研究ⅡB」の履修が必要である。	情報
	情報メディア学特別研究ⅡB	随時	随時	2	2	選(※)	1	半期(後)	常 佐々木 良一	佐々木 良一		情報
	情報メディア学特別制作A	随時	随時	2	2	選(※)	1	半期(前)	常 高橋 時市郎	高橋 時市郎	※職能教育プログラム履修者は「情報メディア学特別制作A」と「情報メディア学特別制作B」の履修が必要である。	情報
	情報メディア学特別制作B	随時	随時	2	2	選(※)	1	半期(後)	常 信二 克人	信二 克人		情報
メディア	音メディア特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常 小坂 直敏	小坂 直敏		情報
	コンピュータグラフィックス特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常 齊藤 剛	齊藤 剛		情報
	ビジュアルコンピューティング特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常 高橋 時市郎	高橋 時市郎		情報
	メディア応用特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常 鉄谷 信二	鉄谷 信二		情報
	言語メディア特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常 絹川 博之	絹川 博之		情報
	デジタル放送論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常 安田 浩	安田 浩		情報
	造形・デザイン特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非 工藤 浩輔	工藤 浩輔		情報
	認知心理学特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	非 黒須 正明	黒須 正明		情報
情報	人間情報システム特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常 川澄 正史	川澄 正史		情報
	ビジネス情報システム特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常 矢島 敬士	矢島 敬士		情報
	ソフトウェアアーキテクチャ特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常 増田 英孝	増田 英孝		情報
	データベース特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	非 安達 淳	安達 淳		情報
	情報セキュリティ特論	○	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常 佐々木 良一	佐々木 良一		情報
	ユビキタスネットワーク特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常 中島 克人	中島 克人	平成24年度開講せず	情報
	インテリジェントコンピューティング特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常 木下 俊之	木下 俊之		情報
	オペレーティングシステム特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	非 小山 裕徳	小山 裕徳	平成25年度は後期に開講	情報
	生体情報学特論	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常 安田 浩	安田 浩		情報
	情報セキュリティ実践概論	●	●	1	2	選	1・2	半期(前)	常 河野 省二	河野 省二		情報
専攻 共通科目	インターンシップ	○	○	随時	2	選	1・2	随時	常 小坂 直敏	小坂 直敏		
									常 川澄 正史	川澄 正史		
「豊かな教 養」科目	安全都市システム論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	非 片山 恒雄	片山 恒雄		
	ITとビジネスモデルA	●	○	1	2	選	1・2	半期(前)	常 宮武 信春	宮武 信春		
	ITとビジネスモデルB	●	○	1	2	選	1・2	半期(後)	常 宮武 信春	宮武 信春		
研究科 共通科目	科学英語Ⅰ	○	○	集中	2	選	1・2	集中	常 絹川 博之	絹川 博之	コロナ大学英語短期研修 専攻主任が担当する e-campus科目のため、理工学研究 科授業時間に合わせて開講	
	MOT概論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	常 富田 英雄	富田 英雄		

※ 修士課程を修了するためには、「高度専門プログラム」または「職能教育プログラム」のいずれかを択一必修として、履修合格しなければならない。
注) 開講区分欄 「●○」=昼夜開講、「○」=昼間開講、「●」=夜間開講、「随時」=随時開講

研究指導教員等の専門分野と指導研究テーマ

《情報メディア学専攻》

教員氏名 居室 (内線電話番号)	専門分野	指導している主な研究テーマ
小坂直敏 1号館 11103A (2804)	コンピュータ音楽 音声表現・合成・加工	信号モデルによる音声・楽音の合成・加工方式 コンピュータ音楽制作のための音合成システム 作曲支援システム コンピュータ音楽制作
川澄正史 1号館 11103B (2806)	生体情報解析 アクセシビリティ	コミュニケーション支援システム 短期集中型モデルによる学習システム 記憶想起時の脳波解析
絹川博之 ☆ 1号館 11102A (2810)	自然言語処理 情報検索	Blog・Web情報の検索・推薦システム 多国・多言語ニュース記事の収集・検索・比較表示 外国人向け日本語学習支援システム ソーシャルブックマーク活用方式
小山裕徳 1号館 11105B (2803)	生体情報処理 コミュニケーション・学習支援技術	生体情報処理 コミュニケーション支援システム 学習支援システム
齊藤剛 1号館 11102B (2807)	形状処理 コンピュータグラフィックス	意匠形状の特徴解析と創成 モーションデータの解析と特徴表示 実環境のCGモデル構成と変形技法
佐々木良一 1号館 11106A (2805)	情報セキュリティ	ウイルス対策・不正侵入防止技術 デジタルデータの証拠性保全技術 ITリスクコミュニケーション技術
高橋時市郎 1号館 11404B (2808)	コンピュータグラフィックス アニメーション・可視化 画像処理・パターン認識 学習科学	写實的・非写實的な映像生成技術 リアルタイム・インタラクティブ・CG技術 3DCGによる江戸の町並み復元技術 学習履歴・Web閲覧履歴の可視化技術
鉄谷信二 1号館 11405A (2802)	映像評価 臨場感 視覚心理	映像コンテンツのための評価法 五感を利用した臨場感再現技術 視覚心理に関する研究

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
中島克人 1号館 11104B (2812)	知的計算システム 並列処理	動画像認識とその応用 メタヒューリスティクスによる最適化 上記各応用の並列計算
増田英孝 1号館 11104A (2815)	Web 情報検索 ソーシャルメディア インタラクティブシステム オブジェクト指向技術	多言語情報資源としての Wikipedia の分析 図書館自動レファレンスサービス ブログ空間におけるスパムサイト解析ツールの開発 新聞記事のテキスト情報と株価動向の関係の解析
宮添輝美 4号館 41008A (3707)	教育工学 オンライン学習 CALL	テキスト分析を用いた情報の可視化 オンライン学習コミュニティにおける相互作用 画像メディアと英単語記憶定着の関係
矢島敬士 1号館 11105A (2809)	情報システム 知識管理	高度コミュニケーション・コラボレーション技術の研究 知能化情報システムの研究 プロジェクト・マネジメントにおける情報管理技術の研究
安田浩 1号館 11404A (2811)	画像符号化 画像処理	コンテンツ創生・流通技術 動画像自動生成 著作権管理技術

☆：専攻主任

ロボット・メカトロニクス学専攻

Robotics and Mechatronics

研究指導教員等の専門分野と指導研究テーマ

《ロボット・メカトロニクス学専攻》

教員氏名 居室 (内線電話番号)	専門分野	指導している主な研究テーマ
石川 潤 ☆ 1号館 11014B (2615)	ロボティクス 制御工学	ロボットなどの高機能モーションコントロール 福祉・医療分野のメカトロニクス制御技術 ナノスケールの高速・高精度サーボ技術 人道目的の対人地雷探知・除去技術
岩瀬 将美 1号館 11002A (2618)	情報駆動システム制御 制御工学 ロボティクス	非線形システムのモデリングと制御 人間の安全を考えたメカニカルシステムとその制御系設計 一輪車・自転車などの不安定システムの制御系設計と応用 ヨーヨー・ジャグリングなどの技能的ロボットの開発と制御 蛇型ロボットなどの環境に適應するロボット開発と制御 制御工学の農工連携への応用
釜道 紀浩 1号館 11001B (2620)	制御工学 ソフトメカニクス スマートマテリアル	ソフトアクチュエータ/センサの開発 高分子素材のスマートセンサの開発 ロボットの動特性を考慮した運動制御
国吉 光 1号館 11017A (2605)	可視化デザイン	噴流式フリーザの吹出し気流 ヘアドライヤの乾燥性能に及ぼす噴出し口の影響 エアシャワーの吹出し気流 ウォール型分煙機の吹き出し性能 高速噴流式ハンドドライヤの乾燥性能の向上
汐月 哲夫 1号館 11016A (2614)	情報化制御システム	ネットワーク化制御システム 遠隔操作システムの操作性向上 組込みシステムと実時間制御系設計 PID 制御系に関する研究 動的システムの解析と設計

教員氏名 居室 (内線電話番号)	専門分野	指導している主な研究テーマ
鈴木 聡 1号館 11013B (2616)	システム制御 人間工学 ロボット工学	熟達を考慮した人間システムモデリングと支援 視線からの操作熟達推定法の研究 協調運搬支援ロボットシステムの研究 自己組織化マップによる機械操作意図推定 天井走行サービスロボットの開発 国別サービス科学とロボットコミュニケーション
中村 明生 1号館 11013A (2609)	ロボット工学 コンピュータビジョン	ヒューマンインタフェース (ジェスチャ認識 インタフェース、カメラ・プロジェクタによる 情報投影提示型インタフェース) 人・環境認識 (顔・服特徴認識/移動ロボット) 物体認識 (視覚情報とロボット動作を組み合わせ た一般物体認識)
畠山 省四朗 1号館 11016B (2607)	情報駆動システム知能化	身体知システム工学 HAM (Human Adaptive Mechatronics) システム同定 システム制御工学 非線形制御
花崎 泉 1号館 11015B (2617)	信号処理とモデリング	多変量信号処理による動作解析 人間動作における「コツ」のモデリング 時系列モデルによる音声解析と応用 発話動作と音声に関する研究 テクスチャ識別における画像情報の抽出
桧垣 博章 1号館 11014A (2611)	情報工学 コンピュータネットワーク	アドホックネットワークのためのルーティン グ/データ配送プロトコル センサネットワーク/メッシュネットワーク 構成手法 VANET (自動車を含む高速移動体からなる 無線マルチホップネットワーク) 基盤技術 高信頼ネットワークアプリケーション実行手 法 WDM光ネットワークプロトコル 分散オペレーティングシステム構成手法 分散アルゴリズム

教 員 氏 名 居 室 (内線電話番号)	専 門 分 野	指 導 して いる 主 な 研 究 テ ー マ
宮 武 信 春 1 号 館 11414 (2621)	システムズエンジニア リング 情報技術応用とモデリ ング	認知と意思決定のモデリング 企業の情報システムソリューションズ 情報系プロジェクトの評価 WEB 活用のソリューション
横 山 智 紀 1 号 館 11015A (2606)	パワーエレクトロニクス メカトロニクス	FPGA を用いた電力変換器の高速デジタル 制御 マイクロマウスロボットの開発 DRP / FPGA による次世代コントローラ開発 グリーンエネルギーシステム 系統連系システムの開発

☆：専攻主任

※客員教授：篠 田 義 明

学 生 生 活

1 窓口取扱い

部署名	窓口取扱時間		窓口停止時間
	月～金曜日	土曜日	月～土曜日
工学部・未来科学部事務部(教務担当)(2号館3階)	8:50～21:30	8:50～19:40	13:10～14:10
学生支援センター(学生厚生担当)(2号館3階)	8:50～21:30	8:50～19:40	13:10～14:10
学生支援センター(キャリア支援・就職担当)(2号館3階)	8:50～20:00	8:50～17:00	13:10～14:10

- ・取扱停止、時間変更等がある場合は各部署毎に、その都度掲示によりお知らせします。
- ・証明書自動発行機の稼働時間は窓口と同様です。
- ・長期休業期間中は、窓口時間および証明書自動発行機の稼働時間が変更になりますので、事前に掲示を確認して下さい。

2 証明書関係

各種証明書は2号館3階の証明書自動発行機で取扱います。ただし証明書によっては申込み用紙を出力した上で取扱い部署に申し込みます。

証明書の名称	手数料(円)	取扱い部署	備考					
成績証明書	日本語	工学部・未来科学部事務部 (教務担当)	発行までに1週間を要する					
	外国語							
修了見込証明書	日本語		2号館3階	発行までに1週間を要する				
	外国語							
修了証明書	日本語			工学部・未来科学部事務部 (教務担当)	発行までに1週間を要する			
	外国語							
修了成績証明書	日本語				2号館3階	発行までに1週間を要する		
	外国語							
人物に関する証明書	500					工学部・未来科学部事務部 (教務担当)	(在学生)	
	1,000						(修了生)	
元在学成績証明書	1,000						2号館3階	
科目等履修生単位取得証明書	1,000							
建築士試験の大学院における実務経験に係る修得単位証明書	500	平成21年度以降建築学専攻に入学し、修了した者						
在学証明書	日本語	学生支援センター (学生厚生担当)						発行までに1週間を要する
	外国語							
元在学証明書	日本語		2号館3階					発行までに1週間を要する
	外国語							
通学証明書	無料			健康相談室				
学生証再発行	2,000				翌日発行(土日祝除く)			
学生旅客運賃割引証	無料							
健康診断証明書	200							

※ 学部学生時の証明書は卒業生扱いとなります。卒業生用の申請書に卒業時の所属を記入の上、申し込んでください。

3 正課授業による閉館時間中の施設利用

平日 22：30～翌日 7：30（休日・祭日は 9：00～18：00）に施設を利用する場合には、予め指導教員へ申し出て下さい。（許可が得られた場合、指導教員が該当施設の施錠・解除の予約設定をいたします。）

4 大学院研究費による補助取扱い

【取扱い】

大学院研究費は、旅費補助・総合メディアセンター使用料・図書閲覧室コピー機使用料に適用されます。

【旅費補助】

大学院生が旅費補助申請できるのは、国内外の学会に参加する場合（発表・聴講）に限ります。

また、特別な専攻分野で、研究指導教員が特に必要と認める現地調査についても、同様に申請することができます。

< 手続き >

「研究費による国内（海外）出張旅費内訳書」に

- ・学会に参加する場合は「学生本人の発表が確認できるもの、または聴講内容の確認できるもの（プログラム等）」
- ・現地調査の場合は、「現地調査計画書」（工学部・未来科学部事務部に有）を添付の上、研究指導教員に提出して下さい。

※ 「研究費による国内（海外）出張旅費内訳書」（国内の場合：様式 5-1、海外の場合：様式 5-2）は、研究指導教員に配布されています。又は、工学部・未来科学部事務部にあります。

※ 宿泊費は 1 泊につき上限 8,000 円までとします。海外は、「学会出張等国外旅費計算基準（研究指導教員に配布）を参照して下さい（助手欄）。

※ 連名による学会発表で本人が直接発表しない場合は当該専攻主任の承認も必要です。

5 学 籍

休学、退学を願い出る者は、学生支援センター（学生厚生担当）に申し出て所定の手続きをとらなければなりません。詳細は、学生支援センター（学生厚生担当）に相談してください。

① 休 学

傷病その他やむをえない理由により、引き続き3ヶ月以上出席できない時は、所定の「休学願」（平成23年度以前の入学者は学生証添付）を提出し許可を得なければなりません。傷病による場合は、医師の診断書が必要です。

休学できる期間は、許可を受けた年度限りです。なお、特別の事情があると認められた場合は、引き続き合計2年間まで休学を許可することがあります。休学の申請期間は、学期途中から休学する場合でも半期（6ヶ月）ごとになります。ただし前期での申請時期についてのみ通年（前期と後期）での休学申請も可能です。休学期間は在学年数に算入されません。平成24年度の入学生は、休学期間中は授業料等の学費納入は不要ですが、半期60,000円の在籍料の納入が必要です。ただし、所定の期日までに願を提出する必要があります。詳細は学生支援センター（学生厚生担当）にお問い合わせください。

② 復 学

休学の理由がなくなった場合は、復学願を提出し、許可を受けなければなりません。傷病等により休学していた場合は、医師の診断書が必要です。復学できるのは原則として学期の始めです。休学して復学する場合、当該学年の正規進級学年次生の学費が適用され、それを納入しなければ復学できません（詳細な手続きは休学満了の時期に通知します）。

③ 退 学

病気やその他の理由により退学を希望する場合は、所定の「退学願（学生証添付）」を提出し、許可を得なければなりません。退学の期日は原則として学期末（前期：9月10日、後期：3月31日）となります。退学願を提出するためには退学を希望する学期末までの学費を納入していることが必要となります。退学を希望する学期末を経過した場合には、次の学期末での退学扱いとなりますが、所定の期日までに願を提出すれば期日を遡って退学とする場合もあります。詳細は学生支援センター（学生厚生担当）までお問い合わせください。

④ 除 籍

次のいずれかに該当する場合は除籍となります。

- (1) 最長在学年限（学則第6条：修士課程4年、博士課程（後期）6年）を超えたとき
- (2) 休学期間を超えてなお復学しないとき
- (3) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められたとき
- (4) 正当な理由がなく、無届けで、引き続き3ヶ月以上欠席したとき

- (5) 所定の学費納入期限から起算して3ヶ月以内に学費を納入しないとき
(ただし、年度末を越えてはこれを認められないので、年度内の指定された日に必ず納入のこと)

⑤ 再入学

本大学院を退学した者または除籍された者が、同一の課程および専攻へ再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合に限り、選考の上、許可することがあります。ただし、懲戒による退学者の再入学は許可しません。

6 学生証

①学生証の携帯

学生証は、諸君が本学の学生であることを証明するもので、常に携帯し、盗難や悪用されないよう大切に扱ってください。学生証は、各種証明書の交付、図書の貸出しの際にも必要です。

②学生証の交付

新入生 入学式当日に交付します。
在学生（新入生以外） 毎年4月に学生証の年度更新を実施いたしますので、定められた期間内に必ず手続きを行ってください。

③学籍番号について

学生証に記載された7桁の数字・記号を学籍番号といいます。この番号は、みなさんの修了・満期退学後も各種証明書の発行等で利用します。

学籍番号のしくみ

[2012年度入学 未来科学研究科 修士課程建築学専攻 99番の例]



所属専攻記号
学内においては、各専攻を簡単にアルファベット記号で表しています。

建築学専攻…FMA
情報メディア学専攻…FMI
ロボット・メカトロニクス学専攻…FMR

④学生証の紛失・汚損

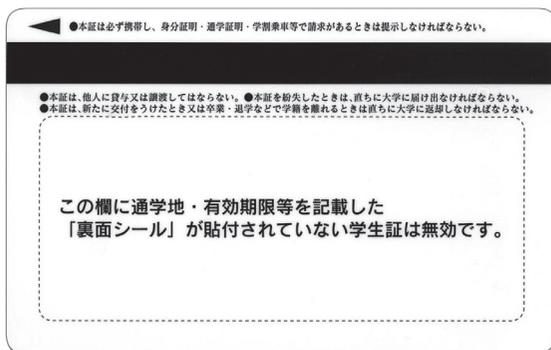
学生証を紛失・汚損した場合は、学生支援センター（学生厚生担当）に届出た後、証明書自動発行機にて学生証再発行の手続きをしてください。（発行手数料 2,000 円）なお、退学・除籍・休学などの場合は、学生証を直ちに返納してください。

⑤住所（学生・保証人）・電話番号・保証人の各変更について

学生支援センター（学生厚生担当）に変更届を提出してください。



〔表面〕



〔カード裏面〕

通学地	東京都足立区千住旭町5番 03-5284-5340(ダイヤルイン)					有効期限
現住所						2012.4.1～2013.3.31
通学区間	～					東京電機大学
通学定期乗車券発行控	発行年月日	通学期間	発行駅	発行年月日	通学期間	発行駅 大学記載欄
		箇月			箇月	
		箇月			箇月	
		箇月			箇月	

〔裏面シール〕

7 学 費

(1) 納入期限（平成 24 年度）及び学費振込用紙の発送時期

新入生

納入期限		学費振込用紙の発送
前学期	後学期	
(入学手続時に前学期分学費は納入済)	10 月末日	後学期分の振込用紙を 7 月上旬に発送。

新入生以外

納入期限		学費振込用紙の発送
前学期	後学期	
4 月末日	10 月末日	4 月上旬に 1 年分（前・後学期の 2 枚）を発送。

(2) 納入方法

本学所定の「学費等振込用紙」にて銀行からお振り込みください。前学期と後学期の年 2 回払いです。ご事情により、ATM やネットバンキングをご使用される場合は、学籍番号・学生カナ氏名・金額を正確にご入力しお振り込みください。

(3) 「学費等振込用紙」について

- ① 経理部（会計担当）から保証人宛に郵送します。
- ② 保証人住所及び氏名は、学生支援センター（学生厚生担当）に登録されている内容を記載しています。変更がある場合は学生支援センター（学生厚生担当）にてお手続きください。
- ③ 保証人以外の宛先を希望される場合は、経理部（会計担当）にてお手続きください。
- ④ 紛失された場合は、経理部（会計担当）にて再発行の手続きをおとりください。

※上記③及び④は、電子メールでのお手続きも可能です。

⇒経理部（会計担当）メールアドレス : gakuhi@jim.dendai.ac.jp

(4) 学費延納

- ① 特別な理由により学費を納期限内に納入できず延納を希望される場合は、納期限までに本学所定の「学費延納願」を提出してください。
- ② 「学費延納願」は、学生本人及び保証人の署名捺印の他、延納理由のご記入が必要です。納期限日までにご提出できるようご準備ください。用紙は学生支援センター（学生厚生担当）にて配付します。
- ③ 延納が許可される期間は、前学期は 6 月末日、後学期は 12 月末日迄です。

(5) その他

- ① 学費が所定の期日を過ぎて未納の場合は学則により除籍となります。

- ② 留年者の学費は当該学年の正規学年次生と同額となります。
- ③ 休学の場合は半期6万円の在籍料がかかります。(平成24年度入学者より)

学費に関する情報は経理部(会計担当)のホームページにて確認できます。
<http://www.dendai.ac.jp/keiri/kaikei/>

8 奨学金制度

奨学金制度は教育の機会均等の精神に基づき、本学独自の奨学金や日本学生支援機構をはじめ、各種の団体により設けられており、学業成績・人物ともに優秀であって経済的に困窮している学生に対して奨学金を貸与または給付するものです。

奨学金関係の事務は学生支援センター(学生厚生担当)で扱っています。募集をはじめ奨学金関係の連絡はすべて掲示板にてお知らせします。見落としのないよう十分注意してください。

なお、家庭の経済事情の急変などのため奨学金を希望する場合は、随時、学生支援センター(学生厚生担当)に相談してください。

平成23年度現在、主な奨学金制度には次のものがあります。

① 日本学生支援機構による奨学金

「第一種」(貸与・無利子)

貸与期間	最短修業年限(修士2年)の終期まで
募集時期	原則として4月上旬の1回限り
貸与月額	50,000円または88,000円
資格	成績が特に優れ、将来、研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を備えて活動することができると認められる者。

「第二種」(貸与・有利子)

貸与期間	最短修業年限(修士2年)の終期まで
募集時期	原則として4月上旬の1回限り
貸与月額	5万・8万・10万・13万・15万円の中から選択
資格	以下のいずれかに該当する者。 (ア) 成績が優れ、将来、研究能力又は高度の専門性を要する職業等に 必要な高度の能力を備えて活動することができると認められる者。 (イ) 学修に意欲があり、学業を確実に修了できる見込みがあると認められる者。

② 東京電機大学大学院貸与奨学金（本学独自：貸与・無利子）

資格	大学院に在学し、人物優秀にして学業成績良好、かつ学費支弁が困難な者（除：留年者・休学者）
貸与額	当該授業料の1/2以内
募集時期	4月と9月の年2回
返還	無利子・卒業後5年間 但し、退学または除籍となる場合は一括返還しなければならない

③ 東京電機大学校友会・新電気奨学金（本学独自：貸与・無利子）

東京電機大学校友会が昭和59年度より設立した制度で、家庭の経済的事情の急変により、学業継続が困難な学生に対して貸与される奨学金です。

資格	本学学生（ただし、在籍期間中1回）
貸与額	学費の1/2相当額
募集時期	学費納入期限以前
返還	無利子・卒業後5年間

④ 東京電機大学学生救済奨学金（本学独自：貸与・無利子）

保証人（家計支持者）の経済的な理由で学費の支払いが困難となり、学業半ばにして学業継続を断念せざるを得ない学生に対して奨学金を貸与し、学業継続の機会を与えるものです。

資格	大学院、学部に在学（在籍）する学生であって、経済的事由により学費の支弁が困難であると認められる者、かつ貸与することにより学業継続が可能である者
応募・採用時期	4月と9月の年2回 （ただし、在籍期間中1回）
貸与額	学費の1/2相当額
返還	無利子・卒業後5年間（繰上げ返還可能） 但し、退学または除籍となる場合は一括返還しなければならない

⑤ 東京電機大学学生支援奨学金（本学独自：貸与・無利子）

本学主催の海外英語短期研修への参加および高額な教育装置の購入など自己資質向上を目的とする学生に対して、支援奨学金を貸与することにより、学生の学業・学生生活を支援するものです。

資格	大学院、学部に在学（在籍）する学生（ただし、休学中・留学中・所定修業年限を超えて在籍している者を除く）
応募・採用時期	4月と9月の年2回 （ただし、在籍期間中1回）
貸与額	30万円以内にて査定
返還	卒業後5年間（繰上げ返還可能） 但し、退学または除籍となる場合は一括返還しなければならない

9 副手制度

① 副手制度とは

本学には、大学院の学生が自分の学業・研究の負担にならない範囲で学部の実験・演習等の授業について授業の補助業務を担当することができ、一定の手当てが支給される副手制度があります。

この制度は、学部と大学院の相互教育を促進することを主旨としており、大学院の学生にとっては理論を実験に生かす貴重な場であり、学部の学生にとっては先輩から気軽に学ぶことができますという多くのメリットを持っています。

このような点から、他大学からも評価されている制度の一つです。

最近では、大学院学生の増加に伴い、希望者全員がこの制度に採用されるとは限りませんが、採用された者は良き先輩であり、かつ良き指導者として業務に取り組む意識を持ってください。

② 業務内容

(1) 授業補助

学部の実験、演習等の授業の補助を行います。

(2) 授業外業務

授業実施に関連する前準備、後始末等のほか、留学生や身体にハンディキャップを持つ学生に対する教育上の補助業務、学習サポートセンターに関する業務、学科の諸業務を行います。

(3) 期末試験監督等

授業補助を担当した者は、学部の定期試験の試験監督等を行わなければなりません。

③ 手当

毎月決められた支給日に月額が支給されます。

月額は、1 授業担当につき下記のとおりです。

	A	B
	授業補助担当分	授業外業務担当分
修士課程在学者	8,000 円	2,600 円
博士課程（後期）在学者	9,000 円	3,000 円

摘 要

A 欄は毎週 2 時間の勤務につき支給する月額。

B 欄は毎週 1 時間の勤務につき支給する月額。

詳細は、副手採用の際交付される細則等をご覧ください。

10 保険制度

① 学生教育研究災害傷害保険（学研災）

本学は、教育研究活動中の不慮の災害事故補償のための「学生教育研究災害傷害保険」に関する賛助会員大学となり、本保険への加入受付事務等を行っています（全員加入制）。

保険金が支払われる場合

・ 本学の教育研究活動中の急激かつ偶然な外来の事故によって身体に傷害を被ったとき

教育研究活動中とは次の場合をいいます。

① 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（以下を総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ. 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。

ただし、もっぱら被保険者の私生活にかかる場所においてこれらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき授業の準備もしくは後始末を行っている間または、授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

② 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式など教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

③ ①②以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している学校施設内にいる間。ただし寄宿舍にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間または大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

④ 学校施設外で大学に届け出た課外活動（クラブ活動）を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。

⑤ 正課・学校行事・課外活動のための移動中

正課・学校行事・課外活動のために、住居と学校施設間の移動中、もしくは学校施設と学校施設間の移動中。

保険金の種類および額(普通保険約款第6条、第7条、第8条、第9条、第10条、第11条参照)
 ※平成23年度以降の場合

	保険金金額		死亡	後遺傷害	医療	入院 (日額)
	担保範囲					
学研災 2,000万円 コース	正課中 学校行事中		2,000万円	90万～ 3,000万円	治療日数1日目から対象 3千円～30万円	4,000円
	上記以外で学校施設 内にいる間		1,000万円	45万～ 1,500万円	治療日数14日以上が対象 3万円～30万円	4,000円
	学校施設以外で大学に 届け出た課外活動中		1,000万円	45万～ 1,500万円	治療日数14日以上が対象 3万円～30万円	4,000円
通学特約	住居と学校施設間ま たは学校施設と学校 施設間の移動中		1,000万円	45万～ 1,500万円	治療日数7日以上が対象 0.6万円～30万円	4,000円

保険金が支払われない場合

- ・故意、闘争行為、犯罪行為、疾病または心神喪失、地震、噴火、津波、戦争、暴動、放射線・放射能による傷害、無資格運転・酒酔い運転、脳疾患、自殺行為など

保険料と保険期間（保険料は入学手続き時に所定の修業年限分を納入済です。下記保険料は、2010年度以降入学者の金額）

- 修士課程 (2年) 1,750円
- “ 社会人コース (3年) 2,600円
- 博士課程（後期） (3年) 2,600円

※ 詳細については、「学生教育研究災害傷害のしおり」（学生支援センター窓口で配付）を確認してください。

② 学研災付帯賠償責任保険（学研賠）

学研災付帯賠償責任保険（学研賠）は、学外機関での研究期間中、正課、学校行事中、およびその往復で、偶然に他人へケガを負わせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害を補償する制度です（任意加入制）。

学外の研究機関に実習へ行く際には、必ず学生支援センター（学生厚生担当）で手続きを行ってください。また当該保険を申し込むためには学生教育研究災害傷害保険（学研災）に加入していることが義務付けられています。

補償の対象となる場合

- ① 正課、学校行事、およびその往復に、次に掲げる事由により、他人の身体に障害（障害に起因する死亡を含む。以下同様。）を負わせ、または他人の財物を損壊（滅賞、毀損もしくは汚損）させ、被保険者が法律上の損害賠償責任を負った場合。
 - イ. 活動に伴い発生した偶然な事故
 - ロ. 活動に伴って提供した財物（飲食物および活動の成果物）に起因する偶然な事故
- ② 前記に定める活動に伴って占有、使用または管理する受託物の偶然な事由による損壊、紛失または盗取により、受託物に対し正当な権利を有する者に対し被保険者が法律上の損害賠償責任を負った場合。

補償の対象とならない場合

故意、心神喪失、車両（自動車等）もしくは動物の所有・使用・管理、戦争、暴動、地震、噴火、津波、排気・排水、受託物（設計書等）の損壊、紛失、盗難など

保険料と保険期間（保険は任意加入となります。下記保険料および期間は2012年度加入者対象）

学研災付帯賠償責任保険 2012年4月1日～2013年3月31日（1年間） 340円

※ 詳細は、加入時に配付するしおりを確認してください。

③インターンシップ・教育資格活動等賠償責任保険（インターン賠）

インターンシップ・教育資格活動等賠償責任保険（インターン賠）は、学生が在学中に自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業等での就業体験（インターンシップ）中や教育実習期間中、ボランティア活動中およびその往復で、偶然に他人へのケガを負わせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害補償を補償する制度です（任意加入制）。

インターンシップへ行く際には、必ず学生支援センター（キャリア支援・就職担当）、教育実習へ行く際には、必ず工学部・未来科学部事務部（教務担当）で手続きを行ってください。また当該保険を申し込むためには学生教育研究災害損害保険（学研災）に加入していることが義務付けられております。

補償の対象となる場合（賠償責任保険普通保険約款第1条、第2条参照）

- ① 正課、学校行事、ボランティア等での課外活動およびその往復に、次に掲げる事由により他人の身体に障害（障害に起因する死亡を含む。以下同様。）を負わせ、または他人の財物を損壊（滅賞、毀損もしくは汚損）させ、被保険者が法律上の損害賠償責任を負った場合。
 - イ. 活動に伴い発生した偶然な事故
 - ロ. 活動に伴って提供した財物（飲食物に限る）に起因する偶然な事故
- ② 前記に定める活動に伴って占有、使用または管理する受託物の偶然な事由による損壊、紛失または盗取（詐欺を含む）により、受託物に対し正当な権利を有する者に対し被保険者が法律上の損害賠償責任を負った場合。

補償の対象とならない場合（賠償責任保険普通保険約款第5条、第6条参照）

故意、心神喪失、車両（自動車等）もしくは動物の所有・使用・管理、戦争、暴動、地震、噴火、津波、排気・排水、受託物（設計書等）の損壊、紛失、盗難など

保険料と保険期間（保険は任意加入となります。下記保険料および期間は2012年度加入者対象）

インターンシップ・教育資格活動等賠償責任保険 2012年4月1日～2013年3月31日
（1年間） 250円

1 1 教育訓練給付制度

「教育訓練給付制度」とは

働く人の主体的な能力開発の取り組みを支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。

雇用保険の一般被保険者又は一般被保険者であった者が、厚生労働大臣の指定する職業に関する教育訓練を受講し修了した場合、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費の20%（支給要件期間が3年以上、ただし、初回に限り1年以上の者）に相当する額（上限10万円）がハローワークから支給されます。

本研究科は平成21年4月より教育訓練給付施設として指定されました。この指定によって、所定の条件を満たす大学院生は給付金を受けることができます。なお、現在開設している修士課程すべての専攻が講座の指定対象となっています。

※概要、対象者、申請手続き等について、下記のホームページに掲載されています。よく読んで申請をしてください。

http://www.kyufu.javada.or.jp/kensaku/T_M_seido

1 2 その他

① 大学院の掲示板は2号館3階です。原則として電話での対応は行ないませんが、急を要する場合は下記に連絡して下さい。

工学部・未来科学部事務部 TEL 03-5284-5333（ダイヤルイン）

※休講・補講情報は、工学部・未来科学部事務部ホームページ（<http://www.soe.dendai.ac.jp/kyomu/>）で公開していますが、最新情報は掲示にて確認して下さい。

② その他事務手続きについての詳細は工学部・未来科学部事務部で相談に応じます。

校友会活動

みなさんが学園の一員として学生生活を送る中で、校友会・同窓会という言葉を目にする機会が多々あると思います。ここではその校友会・同窓会活動について紹介します。

① 校友会と在学生とのかかわり

校友会を卒業生の親睦団体と考えている方が多いと思いますが、本学園では在学中から準会員として校友会と種々の面で関係が保たれています。一例をあげれば、奨学金貸付による経済援助、学園祭・合同体育祭行事およびクラブ活動への援助があります。

在学生（準会員）への援助について

大学の諸行事・活動に対し、平成23年度に校友会として主に行っている事業を次に記します。

- | | | | |
|------------------|-------|----------------|-------|
| (1) クラブ活動補助 | 485万円 | (4) 学園祭、体育祭等援助 | 600万円 |
| (2) 卒業生・新入生記念品贈呈 | 280万円 | (5) 奨学金貸付（無利子） | 650万円 |
| (3) 「工学情報」作成 | 200万円 | | |

② 校友会組織と現況

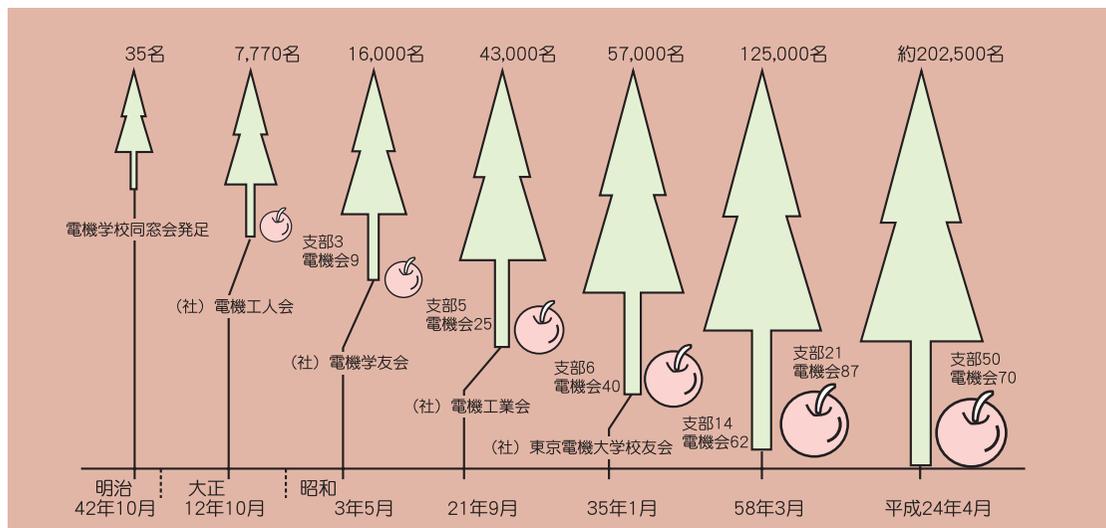
現在、校友会の組織下には各校別の同窓会があり、卒業生の出身地域別支部（みなさんの出身地にもあります）や企業内支部（職域電機会）等が全国各地に組織化されています。

これらの支部組織は将来就職等によりリターンする場合など何かとみなさんの力になって頂けるものと思います。

また、その他に、卒業生情報の管理や機関誌「工学情報」の編集、発行など、在学生や卒業生のための活動を積極的に展開しております。



③ 校友会の発展と卒業生数



④ 東京電機大学校友会・新電気奨学金

この制度の特色は一般の奨学金制度のように特定の期間に限定して公募するのではなく、学生本人または保証人の事情により学費等校納金の支払いに困難な状態が生じた時、申請により校友会が立て替えるものです。

希望者は下記の要件を確認した上、学生アドバイザー、あるいは学生支援センター（学生厚生担当）に相談してください。

貸与額：学費（授業料及びこれと同時に納付する金員を含む）の1/2相当額

返 還：卒業後半年据え置いた後、5年間で年賦・半年賦・月賦による元本均等返済（一括返済可）・無利息

⑤ 大学同窓会の活動

学園の諸活動と密接な関係のある大学同窓会は、クラス会の開催はもとより、在学生のクラブ活動や諸行事にも校友会本部と一体となって活動しています。これらの活動を支えている卒業生は大学院・大学・短大関係で約 10 万名に達しております。

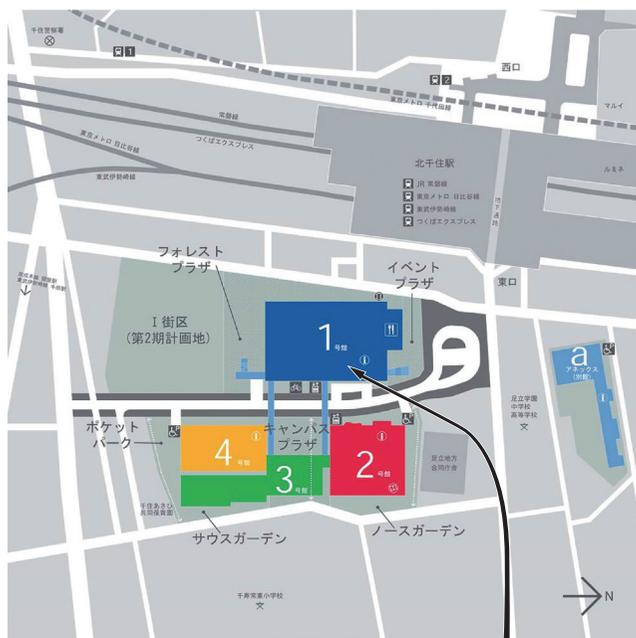
特に大学同窓会では学園と協力して“就職セミナー”を開催しており、産業界で活躍している先輩による就職進路相談は好評であり、また卒業生と在学生との交歓行事“OB 交歓会”では、優秀な学生団体に丹羽賞、同窓会奨励賞を授与しております。

丹羽賞 初代学長の故丹羽保次郎先生が、生前同窓会に寄せられた基金を基に創設されたもので、準会員（在学生）のクラブ活動の育成援助を目的とし、過去 1 年間に優秀な成績をあげた学生団体に与えられます。

同窓会奨励賞 昭和 60 年度より設けられた賞で、丹羽賞の対象にはならないが、地道で着実な活動を続けている団体を応援する目的で贈られます。

⑥ 校友会を訪ねてください

校友会は、東京千住キャンパス 1 号館 2 階にあります。在学中に先輩のこと、郷里の校友会支部のことなど知りたいことがありましたらお気軽にご相談ください。



1号館2階
校友会事務局

〒120-8551

東京都足立区千住旭町 5 番

社団法人 東京電機大学校友会

TEL 03-5284-5140

FAX 03-5284-5187

E-Mail : kouyukai@jim.dendai.ac.jp

URL : <http://www.tduaa.or.jp/koyu/>

業務時間 9 : 00 ~ 17 : 00

各種施設の利用

総合メディアセンター

総合メディアセンターでは、学生と教職員の教育・研究活動のために、学園全体にさまざまなサービスを提供しています。総合メディアセンターのサービスは、東京千住キャンパスはもとより、埼玉鳩山キャンパス（理工学部）、千葉ニュータウンキャンパス（情報環境学部）でも1つのIDとパスワードで利用することができます。

学生証

図書資料の貸出、コンピュータの利用（印刷）、入退室管理、閲覧席の利用など、総合メディアセンターのサービスを利用するときに必要です。学内では必ず学生証を首から下げるようにしてください。

パスワード

パスワードは、総合メディアセンターの各種サービスとポータルサイト（DENDAI-UNIPA）を利用するための大切な鍵であり、他人に乱用されるなどの悪用を防ぐ鍵です。個人データとシステムを守るために初期パスワードは必ず変更してください。推測されやすいパスワードは危険ですので、他人に判らず、自分が忘れないものにしましょう。また、ときどき変更してください。

利用上の注意

- 環境保持のため、施設内に飲食物を持ち込むこと・喫煙は堅くお断りします。
※ただし、一部の施設内では、蓋のできる密閉容器に入った飲み物に限り、持込みを認めています。
- 総合メディアセンター施設内には、濡れたままの傘を持ち込むことを禁じております。濡れた傘は備え付けの傘袋に入れて持ち込んでください。
- 他の利用者の迷惑とならないようマナーを守って利用してください。
- 携帯電話の通話は禁止します。どうしても使用したいときは、総合メディアセンター施設から退出して使用してください。
- 総合メディアセンター内ではスタッフの指示に従ってください。指示に従わない場合は退出していただきます。
- 総合メディアセンターの施設および資源は、教育・研究を目的としたものです。目的以外に利用した場合、その他、不正行為を行った者は、学則に則って処分します。

サービス時間

■開館

開館時間は、総合メディアセンターの Web ページもしくは掲示で確認してください。

※埼玉鳩山キャンパス、千葉ニュータウンキャンパスのサービス時間も Web ページで閲覧可能です。

■休館

日曜日、祝祭日、創立記念日（9月11日）

夏季・冬季・春季の休業中の一定期間

その他に法人・総合メディアセンターが特に必要と認めた日

※都合により変更になる場合がありますので、Web ページもしくは掲示で確認してください。

総合メディアセンターからのお知らせ

Web ページまたは掲示でお知らせします。常に確認するようにしてください。

総合メディアセンターの Web ページ

<http://www.mrcl.dendai.ac.jp/>

各サービスのメニューが表示されます。

見たいサービスやカテゴリをクリックしてご覧ください。

図書サービス

(1) 図書資料の貸出

借用したい図書資料に学生証を添えて、カウンターへ提出してください。また、自動貸出装置を利用して貸出手続きをすることもできます。

■貸出冊数と貸出期間

対象	貸出冊数	貸出期間
学部 1～3 年生	5 冊	2 週間
卒業年次生（学部 4 年生）	10 冊	1 ヶ月
大学院生	10 冊	1 ヶ月

※予約者がいなければ、貸出期間の更新ができます。返却期限日までに手続きをしてください。更新は、自動貸出装置の利用や、図書 Web ページから ID とパスワードを入力するだけで簡単に手続きすることができます。

■館外貸出ができないもの

1	禁帯出の赤ラベルが貼ってある図書資料
2	雑誌（ブラウジングにある雑誌）
3	修士論文および学位論文（複写も不可）
4	視聴覚資料（CD、DVD など）
5	貴重書

(2) 図書資料の返却

借用図書は、定められた期日までに返却してください。借りた図書資料はどのキャンパスでも返却可能です。返却期限日は、図書 Web ページから簡単に確認することができます。退学・除籍・転学・休学などの場合は、貸出残余期間を問わず即時返却してください。

休館日、開館時間外の返却は、ブックポストを利用してください。ブックポストは、各サテライトセンター正面出入口に設置されています。

東京千住キャンパスでは、2 号館 1 階に設置しています。

注意！

図書を延滞すると、遅れた日数分貸出停止となりますのでご注意ください。

なお、借用中の図書資料を紛失した場合には、弁償していただきます。

(3) 図書資料の購入

購入希望の図書資料は、図書 Web ページから依頼することができます。購入不可の場合と、購入後貸出可能となったときに、メールで連絡します。

(4) 図書資料の予約

図書資料は、図書 Web ページから予約することができます。貸出可能日はメールでお知らせします。貸出可能日以降にカウンターへお越しください。

	所属キャンパス	他キャンパス
予約できる資料	貸出中のもの	貸出中のものも含めて全て
貸出可能日	総合メディアセンターからのメールの発信日	
取り置き期間	7日間	

※図書が各キャンパスに届くまでの日数

東京千住⇄埼玉鳩山・千葉NT 1～2日

埼玉鳩山⇄千葉NT 2～3日

※状況によって日数に変更になる場合があります。

図書資料がなかった場合はメールで連絡します。

(5) 各種サービス

レファレンスサービス	図書資料および利用方法に関する質問、学内（外）の情報検索等についてカウンターのスタッフが相談に応じます。
相互利用サービス	必要な資料が本学にない場合は、学外諸機関、他大学図書館等を調査して文献の複写・図書資料の貸借依頼や利用案内、紹介をします。
検索サービス	本学で所蔵している図書資料は、閲覧室内のパソコンで自由に検索できます。また、総合メディアセンターの図書 Web ページを利用して検索することも可能です。
コピーサービス	図書資料の複写は閲覧室内のコピー機を利用してください。私物やノート類の複写はできません。著作権に関しては、利用者が全責任を負うものとします。

※著作権に関する注意（著作権法第31条より抜粋）

図書館においては、次に掲げる場合には、図書資料を複製することができる。

図書館等の利用者の求めに応じ、調査研究のために公表された著作物の一部分の複製物を一人につき一部提供する場合。

Web によるお知らせとサービス (<http://lib.mrcl.dendai.ac.jp/>)

図書 Web ページで以下の情報を公開、サービスを提供しています。

- ・ 資料検索
- ・ 図書資料予約
- ・ 返却期限の確認（自分が借用している図書資料の返却期限の確認）
- ・ 借用図書の貸出期間の更新
- ・ 文献複写・ 図書資料貸借依頼（有料）
- ・ 図書購入依頼（購入希望図書の申込）
- ・ 新着図書情報
- ・ ベストリーダ情報（よく利用される図書資料）
- ・ オンラインジャーナル（IEL Online、ACM Portal、他多数）
- ・ 各種データベース
- ・ 電子図書館

メールによるお知らせ

図書サービスに関する連絡は主にメールで行っています。メールはすべて学籍番号宛になります。学生の場合は、学籍番号 @ms.dendai.ac.jp です。以下のような連絡をメールで行いますので、常に確認してください。

- ・ 予約図書資料到着のお知らせ
- ・ 貸出・更新・返却履歴（前日分）のご案内
- ・ 返却期限日のお知らせ（返却期限日の1日前に連絡）
- ・ 延滞のお知らせ（返却期限日以降に連絡）
- ・ 文献複写・ 図書資料貸借到着のお知らせ
- ・ 購入希望図書到着・却下のお知らせ

(6) 各種設備

メディアゾーン	開架書架・集密書架エリアには、図書がNDC（日本十進分類法）により主題別に分類されています。また、集密書架エリアには学術雑誌（バックナンバー一部含む）も配架されています。受験書や就職本、旅行・レジャー・地図などの図書のコーナーも設置しています。読みたい本を自由に探して閲覧することができます。静粛閲覧エリア（貸出制）もあります。
ラーニングゾーン	グループスタディエリアは、ディスカッションしながらの学習や、プレゼンテーションの練習等、グループで使用することができます。ラーニングcommonsエリアは、相談しながら学習が可能なエリアです。可動式のホワイトボードを設置しています。
リーディングゾーン	閲覧エリアとブラウジングエリアがあります。個人用の閲覧席（貸出制）もあります。ブラウジングエリアは、くつろいで新聞や雑誌を読みたいときに利用してください。また、日替わりで本学の所蔵しているDVDを放映しています。

図書サービスに関するお問い合わせは下記まで

2号館 1階または2階のカウンター
メール：k-library@mrcl.dendai.ac.jp

コンピュータサービス

総合メディアセンターでは、コンピュータ関連のシステムを数多く整備しています。ここでは、みなさんが直接利用するシステム、サービスを紹介します。活用してください。

- ・ ユーザ端末システム
- ・ 情報コンセントシステム
- ・ プリントシステム
- ・ メールシステム

(1) ユーザ端末システム

総合メディアセンターが管理運用しているパーソナルコンピュータのシステムです。1つのID（学籍番号）とパスワードで、全キャンパスのユーザ端末システムが利用できます。

場所	室名	PC	利用形態
2号館4階	PC教室1	84台	授業優先 授業が行われていないときは、自由に利用できます
	PC教室2	42台	
	PC教室3	68台	
	PC教室4	56台	
	PC教室5	80台	
	PC教室6	50台	
	プリントルーム	2台	印刷専用端末

授業・研究で利用するための多種多様なソフトウェアがインストールされています。ソフトウェアの一覧等はWebページをご覧ください。

また、システム保護のため、各種設定の変更やソフトウェアのインストール等はできませんので注意してください。

(2) 情報コンセントシステム

LAN 接続可能なパソコンと LAN ケーブルを持参すれば、以下の場所でネットワークに接続して利用することができます。利用に際しては認証が必要です。詳しくは Web ページの手引きをご覧ください。

■使用可能な場所

東京千住キャンパス

2号館 1階 閲覧エリア 1

2号館 4階 PC 教室 7

2号館 9階 2901、2903 教室

2号館 10階 21001、21003、21004、21005 教室

1号館 2階 丹羽ホール

※埼玉鳩山キャンパス、千葉ニュータウンキャンパスの使用可能場所は Web ページをご覧ください。

(3) 無線 LAN

東京千住キャンパス内では、ほぼ全域で無線 LAN の利用が出来ます。

無線 LAN の使用方法や埼玉鳩山キャンパス、千葉ニュータウンキャンパスの使用可能場所につきましては Web ページをご覧ください。

(4) プリントシステム

PC 教室・プリントルーム・図書エリアに設置しているプリンタで、随時印刷することができます。使用方法は、Web ページで確認してください。

注意！

印刷枚数には制限があります。

制限枚数などの詳細については、掲示・Web ページで事前に確認のうえ、利用してください。

(5) メールシステム

学生には入学と同時にメールアドレスが付与されます。
メールアドレスは、学籍番号 @ms.dendai.ac.jp です。
各種サービスのお知らせが個人宛に送られてきますので、常に確認してください。
(また、メールを、他のメールアドレスや携帯電話に転送することも可能です。)
マナーを守り、コミュニケーションツールとして利用してください。

Web メールシステム (<https://webmail.mrcl.dendai.ac.jp/>)

総合メディアセンターではブラウザを利用した Web メールシステムも提供しています。自宅、外出先から、Internet Explorer などのブラウザが使える環境があればメールの送受信が可能です。

インターネットの利用について

- ・インターネットを経由して学外のコンピュータへ接続することは、学外の手機関の通信用コンピュータや専用回線などを利用することになります。快適な利用をするために、無駄な接続やデータ転送をしないよう心がけて利用してください。
- ・総合メディアセンターでは快適な利用ができるように、ネットワークの利用状況を常時モニタリングしています。
- ・メールアドレスを間違えたり、むやみに大量データの送受信をしたりしないでください。
- ・ユーザ端末システムでは、混雑時には課題作成の学生を優先するために、ネットワークだけの利用を禁止することがあります。
- ・インターネット上の情報（文章・画像・音声等）の取り扱いは、著作権を侵害しないよう細心の注意を払ってください。また、「学内ネットワークを利用した営利行為」「迷惑メールの発信」「個人・特定団体への誹謗・中傷」「著作権侵害行為」などの悪質な行為は、学則に則って処分します。
- ・利用上の注意や禁止事項は、Web ページでもお知らせします。随時変更がありますので、必ず確認してください。

(6) 困ったときは

■パソコン操作やプログラム作成時のエラーなどで困ったとき

大学院生の利用相談員に相談してください。

白衣を着用して交代で待機しています。以下のように質問を受け付けています。

期 間：授業期間中

場 所：2号館4階PCカウンター

※利用相談員が在席している時間については Web ページをご覧ください。

メール：pg-soudan@ms.dendai.ac.jp

※メールでの質問は期間中ならば随時受け付けています。

相談するときの注意

言葉づかいに気をつけて、以下のことをはっきりとわかりやすく伝えましょう。

- ・自分の学籍番号と氏名
- ・何をしたいのか
- ・どのような操作をして、どのようにエラーが出るのかなど

■各種申請手続や機器故障で困ったとき

総合メディアセンターへの申請手続き、ユーザ端末が動かなくなったときなど機器の障害が発生した場合には、コントロールルームにお越しく下さい。

場 所：2号館4階コントロールルーム

メール：k-computer@mrcl.dendai.ac.jp

STOP! HARASSMENT

ハラスメント防止宣言

東京電機大学は、個人の人格と人権が尊重され、それぞれの能力が最大限に発揮されるような、自由な学問と教育の場であることをめざしています。

そのためには、学生等が教育・研究などの諸活動を相互信頼のもとに進められるよう、安全で快適な環境を整えていくことが重要であると考えています。

人間関係において相手を対等な関係と見ることなく、差別したり、性的な対象として心理的、身体的に傷つけたりすることはあってはならないことです。

しかし不測の事態に備え、ハラスメント相談受付窓口を設け、相談内容に応じてハラスメント対策委員会委員長が、適切なハラスメント相談員を紹介あるいはハラスメント調査委員会を組織して事実関係を調査するなど、ハラスメントの防止に取り組むことを宣言します。

平成16年4月1日宣言



TDU

東京電機大学

TOKYO DENKI UNIVERSITY

東京千住キャンパス
ハラスメント対策委員会

ハラスメント相談受付窓口

ハラスメントに少しでも悩んでいたら、一人で悩まず、ハラスメント相談受付窓口を利用してください。

詳細は専用パンフレットで確認してください。

What's HARASSMENT?

「ハラスメント」とは、相手に不快感や脅威を感じさせる不適切な言動のことを意味します。

教職員と学生、サークルやゼミの先輩と後輩など立場を利用したものだけでなく、同級生同士でも相手が不快に感じる言動は「ハラスメント」になります。



セクシュアル・ハラスメントとは

相手の意に反して行われる性的な内容の発言や行動を意味します。

- 性的な関係・交際・行為を強要する
- 身体に触れる
- 身体的特徴について話題にしたり、視線を浴びせたりする
- 性的な話題を聞かせたり、あるいは聞き出そうとする

基本的には「対価型」と「環境型」の2つに分けられます。

対 価 型

対価型とは、強い立場を利用して相手の処遇に便宜を図る対価として性的要求をしたり、弱い立場の人がそれを拒否した場合、その人を不利な状態に陥らせたりするものを言います。

- 成績評価や指導面、処遇面などの条件に性的関係を迫る。
- 酒席や交際を断られたこと等を理由に成績評価や指導面、処遇面などについて不当な扱いをする。

環 境 型

環境型とは、周囲の人が不快になるような性に関する文書・写真を掲示したり、言葉や行為などによって環境を悪化させることを言います。

- 卑わいな冗談を言ったり、異性の差別的発言をする。性的な噂を流したり、個人的な性的体験談を話したり、聞いたりする。
- ノードポスターやわいせつ図画等を掲示、配布したり、パソコン等に卑わいな画像を表示する。

これは、セクハラ!

- 相手の身体を上から下までジロジロ見つめる。
- 相手の髪・肩・背中・腰など身体を不必要に触る。
- 相手のスリーサイズを聞く、身体的特徴を話題にする。
- 異性との仲を噂する。
- 講義中に教員が卑わいな発言や、差別的な発言をする。
- コンパの席で男性教員（先輩）の横に女子学生を必ず座らせ、お酌をさせる。
- 食事やデートにしつこく誘う。性的な内容の電話をかけたり、手紙やメールを送る。

これもセクハラかも・・・

- 挨拶代わりに毎日、肩をたたく。
- 「男のくせに根性がない」、「お茶を入れるのは女の仕事」、成人に対して「男の子・女の子」、「おじさん・おばさん」など人格を認めないような呼び方をする。
- 「いいプロポーションだね」、「ミニスカートが魅力的だね」と言う。
- 「何で結婚しないの?」、「子供はまだなの?」と聞く。

＊アカデミック・ハラスメントとは＊

教育・研究の場における権力を利用した嫌がらせ、差別、人格を傷つける発言などを指します。

これはアカハラ！

- 卑わいな発言に抗議したら、「冗談の通じないやつには単位をやらない」と言われた。
- 「お前はやっぱりダメだ」と言って指導を放棄された。
- 「大学をやめろ」とか「卒業させない」と必要以上に何度も言われた。
- 同じ研究チームなのに、理由もなくはずされたり、理由もなく論文著者名の変更などされた。

大切なのは相手の判断

あくまでも相手の受け止め方によるものであり、言動を受けた者が不快に思うかどうかによって判断されます。

拒否または、服従したかどうかは問題になりません。

もし、あなた自身がハラスメントを受けていると感じたら＊

- 勇気をもって、「NO」の意思表示をしましょう。相手に言葉ではっきり伝えることが大切です。
- 誰から、いつ、どのような被害を受けたかなど、できるだけ詳しく記録しておきましょう。
- 信頼できる周囲の人に相談しましょう。

＊ハラスメントの現場に居合わせたなら＊

周りの人にも
できることがあります

- 自分の周囲で被害にあっている人がいたら、毅然として「いけない」とはっきり言いましょう。
- 被害にあっている人の相談にのりましょう。必要な場合は証人になることもできます。
- 解決が難しいと感じた場合は、ハラスメント相談受付窓口に行くように勧めたり、必要に応じて同行しましょう。

＊加害者にならないために＊

私たちは、誰でもハラスメントの被害者になる可能性があると同時に、加害者になる可能性もあります。自分でも気がつかないうちに相手に不快な思いをさせたり、相手の心をひどく傷つけているケースも多々あります。その場合、必ずしも相手が不快の念を表明するとは限りません。対等でない立場にいる場合、相手に遠慮して話せない心理状態に追い込まれていることも考えられます。

ハラスメントを起こさないために、日頃から相手の気持ちを気遣うように心がけ、日々の自らの言動をチェックし、お互いを尊重し、認め合う関係を築くよう心がけることが大切です。

諸 規 程

東京電機大学大学院学則

第1章 総 則

(目的)

- 第1条** 本大学院は、本大学の使命に従い、専攻分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の向上と産業の発展に寄与することを目的とする。
- 2 本大学院は、第3条第1項に定める研究科及び専攻における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を各研究科の研究科規則に定める。

(自己評価等)

- 第2条** 本大学院は、その教育研究水準の向上を図り、大学院の目的及び社会的使命を達成するため、大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。
- 2 前項の点検及び評価は、その趣旨に則して適切な項目を設定し、かつ適切な体制のもとに行う。
- 3 本大学院は、第1項の点検及び評価の結果について、学外者による検証を行うよう努めるものとする。
- 4 本大学院は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

第2章 編 成

(研究科・課程・専攻)

- 第3条** 本大学院に工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科及び先端科学技術研究科を設け、各研究科に次の課程及び専攻を置く。

工学研究科

修士課程

電気電子工学専攻
物質工学専攻
機械工学専攻
情報通信工学専攻

理工学研究科

修士課程

理学専攻
情報学専攻
デザイン工学専攻
生命理工学専攻

情報環境学研究科

修士課程

情報環境学専攻

未来科学研究科

修士課程

建築学専攻

情報メディア学専攻

ロボット・メカトロニクス学専攻

先端科学技術研究科

博士課程（後期）

数理学専攻

電気電子システム工学専攻

情報通信メディア工学専攻

機械システム工学専攻

建築・建設環境工学専攻

物質生命理工学専攻

先端技術創成専攻

情報学専攻

2 前項に定める各研究科に、研究科規則を定める。

3 前項の研究科規則に、次の事項を記載する。

- ① 研究科・専攻における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
- ② 学年・学期に関する事項
- ③ 教育課程に関する事項
- ④ 課程修了の要件
- ⑤ その他、大学院学則施行上の必要事項

（課程の区分・修業年限）

第4条 修士課程の標準修業年限は2年とし、工学研究科社会人コースにおいては3年とする。

2 博士課程（後期）の標準修業年限は3年とする。

（課程の目的）

第5条 修士課程は、広い視野にたつて精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

2 博士課程（後期）は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

（最長在学年限）

第6条 最長在学年限は、修士課程を4年、博士課程（後期）を6年とする。ただし、修士課程のうち工学研究科社会人コースにおいては6年を最長在学年限とする。

（入学及び収容定員）

第7条 各研究科の入学定員及び収容定員は、別表第1のとおりとする。

第3章 運営の機関

(研究科委員長)

第8条 各研究科に、研究科委員長を置く。

- 2 委員長の選出に関する規則は別に定める。
- 3 委員長は、当該研究科の学務を統括し、次条に規定する研究科委員会を招集する。

(研究科委員会)

第9条 各研究科に、研究科委員会を置く。

- 2 研究科委員会は、大学院担当の専任教員で組織する。
- 3 大学院担当の教員の資格・種別、その選考基準及び選考手続ならびに研究科委員会の組織及び運営等については別に定める。

(審議事項)

第10条 研究科委員会は、それぞれの研究科に関する、次の事項について審議する。

- (1) 学生の入学、転学、留学、休学、退学及び賞罰等に関する事項
- (2) 教育課程及び授業編成に関する事項
- (3) 試験及び学位論文審査に関する事項
- (4) 学位授与に関する事項
- (5) 研究科委員会会員の人事に関する事項
- (6) 委員長の推挙に関する事項
- (7) 大学院則及び研究科規則の改正に関する事項
- (8) 委員長または学長が諮問した事項
- (9) その他研究及び教育に関する事項

第4章 学年、学期および休業日

(学年・学期)

第11条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

- 2 学年を前学期及び後学期に分け、その期間については各研究科において定める。

(休業日)

第12条 休業日は、次のとおりとする。

日曜日

国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

創立記念日 9月11日

夏季休業

冬季休業

春季休業

- 2 夏季休業、冬季休業及び春季休業の期間については、各研究科においてその都度定める。
- 3 必要があるときは、休業日を変更し、または臨時に休業日を定めることができる。
- 4 休業中でも、特別の必要があるときには、授業を行うことがある。

第5章 教育課程

(授業科目・単位等)

第13条 各研究科における授業科目及び単位数は、各研究科規則において定める。

- 2 授業科目の単位数算定の基準については、本大学学則第21条を準用する。
- 3 授業科目の履修方法及び博士課程（後期）における必要な研究指導については、各研究科の定めるところによる。
- 4 本大学院は、授業並びに研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(大学院の教育方法の特例)

第14条 各研究科においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、標準修業年限の全期間にわたり、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(他の大学院における授業科目の履修)

第15条 学生が各研究科の定めるところにより、他大学の大学院または外国の大学院において履修した授業科目について修得した単位は、当該研究科委員会が教育上有益と認めた場合、その修得した単位のうち10単位を超えない範囲で、その研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

(入学前の既修得単位の認定)

第16条 学生が、本大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位は、当該研究科委員会が教育上有益と認めた場合、本大学院に入学した後の本大学院当該研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項により修得したものとみなすことのできる単位数は、本大学院において修得した単位以外のものについては、10単位を超えないものとする。

(他の大学院または研究所等における研究指導)

第17条 学生が、他の大学院または研究所等において課程修了に必要な研究指導の一部を受けることが教育上有益であると研究科委員会が認めた場合、当該大学院（もしくは研究科）または研究所等の協議に基づき、その研究指導を受けることを認めることができる。

- 2 前項の規定により研究指導を受けることのできる期間は、1年を超えないものとする。ただし、修士課程を除き、研究科委員会が教育上有益と認めた場合、さらに1年以内に限り延

長を認めることができる。

- 3 前2項の規定は、学生が外国の大学院または研究所等において研究指導を受けようとする場合に準用する。

(学部等における授業科目の履修)

第18条 修士課程においては、教育上有益と当該研究科委員会が認めた場合で、次の各号に掲げる科目を修得したときは、当該研究科の修士課程における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- (1) 本大学学部の科目
- (2) 本大学院の他の研究科の科目

(教員の免許状取得資格)

第19条 教育職員の免許状を取得しようとする者は、本学で定めている教職課程に関する科目及び必要な授業科目を修得しなければならない。

- 2 本大学院において取得できる免許状の種類は別表第2のとおりとする。

第6章 課程修了の要件とその認定

(修士課程修了の要件)

第20条 修士課程の修了要件については、修士課程を置く各研究科の研究科規則において定める。

(博士課程(後期)修了の要件)

第21条 博士課程(後期)の修了要件については、博士課程(後期)を置く各研究科の研究科規則において定める。

(課程修了の認定・成績評価)

第22条 課程修了の認定は、各研究科委員会が行う。

- 2 学位論文審査及び最終試験の成績評価は、各研究科委員会が定める手続、方法等に従い、当該研究科委員会から委嘱された論文審査委員及び最終試験委員が行う。
- 3 科目及び論文審査の評価は、次のとおりとする。

[先端科学技術研究科]

- (1) 科目及び論文審査
 - A 合格
 - B 合格
 - C 合格
 - D 不合格

- (2) 最終試験
合格
不合格

[工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科]

- (1) 科目及び論文審査
S 合格
A 合格
B 合格
C 合格
D 不合格
- (2) 最終試験
合格
不合格

第7章 学位授与

(学位の授与)

第23条 本大学院の課程を修了した者には、「東京電機大学学位規程」の定める手続により、研究科委員会の議を経て修士または博士の学位を授与する。

- 2 博士課程（後期）を経ないで論文を提出し、博士の学位を請求した者に対する論文審査及び学力の確認は、「東京電機大学学位規程」及び「東京電機大学博士課程によらない学位請求の審査規程」の定めるところによる。

(学位の種類・名称)

第24条 学位の種類及び名称は、別表第3のとおりとする。

第8章 入学、学籍の異動および賞罰

(入学の時期)

第25条 入学の時期は、学年もしくは学期の始めとする。

(入学資格)

第26条 修士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

- (5) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - (6) 文部科学大臣の指定した者
 - (7) 大学に3年以上在学し、又は、外国において学校教育における15年の課程を修了し、本大学院当該研究科委員会が、特に優れた成績で所定の単位を修得したものと認めた者
 - (8) 本大学院当該研究科委員会において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者
 - (9) その他本大学院当該研究科委員会が、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
- 2 博士課程（後期）に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
- (1) 修士の学位を有する者
 - (2) 外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者
 - (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者
 - (4) 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本大学院当該研究科委員会が、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
 - (5) 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、または外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
 - (6) 本大学院当該研究科委員会において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者
 - (7) その他本大学院当該研究科委員会が、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

（入学志願手続）

第27条 入学志願者は、指定の期間内に、所定の入学志願手続をとらなければならない。

（修士課程入学者の選考）

第28条 修士課程への入学者の選考は、学科試験、人物考査及び健康診断等の方法による選抜試験により行う。

- 2 学科試験は、主として筆記とし、必要があるときは口述を加えることがある。
- 3 筆記試験は、専門に関する学科目と外国語について行う。

（博士課程（後期）入学者の選考）

第29条 博士課程（後期）への入学者の選考は、筆記試験、口述試験、修士課程における学

業成績、修士論文、人物考査及び身体検査等の方法による選抜試験により行う。

(入学手続)

第 30 条 入学者の選考に合格した者は、指定の期日までに保証人連署の誓約書その他必要な書類に別表第 4 に定める学費を添えて、入学手続をしなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(転学)

第 31 条 他の大学院の学生が、所属大学の学長または研究科の長の承認書を添えて本大学院に転学を志望したときは、選考の上、学年または学期の始めに入学を許可することがある。

2 学生が、他の大学院への転学を願い出たときは、事情によって許可することがある。

(再入学)

第 32 条 大学院を退学した者または除籍された者が、再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。ただし、懲戒による退学者の再入学は許可しない。

(留学)

第 33 条 学生が、外国の大学院等の授業科目の履修または研究指導を受けるために留学を願い出たとき、その学生の所属の研究科委員会が、本人の教育上有益であると認めた場合、許可することができる。

2 留学期間は 1 年を原則とし、その期間は 1 年を限度として、第 20 条もしくは第 21 条に定める在学年数に算入できる。

3 留学期間中における学費は、事情により減額もしくは免除することができる。

(休学)

第 34 条 傷病その他の理由で引き続き 3 ヶ月以上出席することができない者は、医師の診断書もしくは理由書を添え、休学届を提出し、研究科委員長の許可を受けなければならない。

2 休学は当該年度限りとする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することがある。

3 休学期間は、各課程それぞれ 2 年を超えることはできない。

4 休学の理由が消滅したときには、復学届を提出し、研究科委員長の許可を受けなければならない。

5 休学期間は、在学年数に算入しない。

6 休学者は学期ごとに、60,000 円の在籍料を納入する。

(退学)

第 35 条 傷病その他の理由により退学しようとする者は、理由書を添え、保証人連署の退学届を提出し、許可を受けなければならない。

(除籍)

第 36 条 次の各号のいずれかに該当する者は除籍とする

- (1) 第6条に定める最長在学年限を超えた者
- (2) 第 34 条第3項に定める通算休学期間を超えても復学しない者
- (3) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められた者
- (4) 正当な理由がなく、無届けで、引き続き3ヶ月以上欠席した者
- (5) 所定の学費の納入期日から起算して、3ヶ月以内に学費を納入しない者

(表彰)

第 37 条 学生として表彰に価する行為があった者については、学長または委員長は表彰することができる。

(懲戒)

第 38 条 学則に基づいて定められている規則、規程等に違反し、あるいはその他学生としての本分に反する行為があった学生に対しては、研究科委員会の議を経て、学長が懲戒する。

- 2 懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
- 3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。
 - (1) 性行不良で、改悛の見込みがないと認められた者
 - (2) 本学の秩序を乱し、その他学生の本分に著しく反した者

第9章 科目等履修生

(科目等履修生)

第 39 条 本大学院の学生以外の者で、本大学院で開設している1または複数の授業科目の履修を希望する者は、選考の上、科目等履修生として科目等の履修を許可することができる。

- 2 科目等履修生に関する事項は、別に定める。

第 10 章 外国人特別学生

(外国人特別学生)

第 40 条 外国人であって、第 26 条に定める入学資格がある者は、選考の上、入学を許可することができる。

第 11 章 学費及びその他の費用

(学費及びその他の費用)

第 41 条 入学検定料、学費及び科目等履修費は別表第4のとおりとする。

- 2 学費とは、入学金及び授業料をいう。
- 3 博士の学位論文審査料については、別に定める。

- 4 学費及びその他の費用は、所定の期日までに納入しなければならない。
- 5 すでに納入した学費その他の費用等は、返還しない。ただし、入学手続きのために納入した学費その他の費用については、学費取扱規程の定めによる。
- 6 授業料は分納することができる。

第 12 章 改正および雑則

(改正)

第 42 条 本学則の改正は、研究科委員会の議を経なければならない。

(施行細則その他)

第 43 条 本学則の施行に必要な細則等は、研究科委員会の議を経て別に定めることができる。

附 則 (省略)

別表第 1～4 (省略)

東京電機大学大学院未来科学研究科規則

第1章 総 則

(趣旨)

第1条 未来科学研究科規則は、東京電機大学大学院学則（以下「大学院則」という。）第3条第2項に基づき、未来科学研究科（以下「本研究科」という。）の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的、学年及び学期、教育課程、課程修了の要件その他大学院則施行上必要な事項を定める。

(人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的)

第2条 本研究科は、学部教育で培った科学技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的生産活動を促進する生活空間（知的住空間、知的情報空間、知的行動空間）を創生する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とする。

すなわち、人の生活空間環境の発展と維持に、科学技術を適用しかつ共生させることができる、幅広い視野と時代の方向性を見通す先見性と創造性を有する高度専門科学技術者を養成する。

2 本研究科の各専攻における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

(1) 建築学専攻は、学部教育で培った建築技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的住空間を創生する建築学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とする。

すなわち、建築学の「建築計画学・都市計画学」「建築環境学・設備工学」「建築構造学・生産工学」ならびに「建築設計」部門の創造性を有する高度専門科学技術者を養成する。

(2) 情報メディア学専攻は、学部教育で培った情報メディア技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的情報空間を創生する情報メディア工学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とする。

すなわち、情報メディア学の「メディアデザイン」「ヒューマンコンピュータインタラクション」「ネットワークコンピューティング」部門の創造性を有する高度専門科学技術者を養成する。

(3) ロボット・メカトロニクス学専攻は、学部教育で培ったメカトロニクス技術に関する知識をさらに発展させて、人類の知的行動空間を創生するロボット・メカトロニクス工学に関する科学技術の開発及びそれを展開する能力を修得させることを目的とする。

すなわち、ロボット・メカトロニクス学の「電気電子工学」「機械工学」「情報工学」「コンピュータ工学」「制御工学」部門の基盤技術を相乗的に統合する創造性を有する高度専門科学技術者を養成する。

第2章 学年及び学期

(学年・学期)

第3条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 学年を、次の2つに分ける。

前学期 4月1日から9月10日まで

後学期 9月11日から翌年3月31日まで

第3章 教育課程

(授業科目・単位等)

第4条 本研究科における授業科目及び単位数は、別表第1のとおりとする。

第4章 成績及び修了

(成績評価・単位認定)

第5条 本研究科は大学院則第22条に基づき、科目の成績評価を行う。

2 本研究科における、成績評価及びGPA (Grade point Average) ポイントは、次の評点区分に基づき行う。

評点	成績評価	GPA ポイント
90～100	S	4
80～89	A	3
70～79	B	2
60～69	C	1
0～59	D	0
放棄	—	0

(修士課程修了の要件)

第6条 本研究科において修士課程を修了するには、2年以上在学し、所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた業績をあげた者については、1年以上の在学で修了を認めることができる。

2 前項の場合において、修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

第5章 改正

(改正)

第7条 この規則の改正は、本研究科委員会の議を経なければならない。

附 則 (省略)

別表第1 (省略)

東京電機大学学位規程（抄）

第1章 総 則

（目的）

第1条 本学学位規程は、本学において授与する学位の種類、論文審査及び試験の方法その他学位に関し、必要な事項を定めるものとする。

（学位の種類等）

第2条 本学において授与する学位は、博士、修士及び学士であり、それに付記する専攻分野は次のとおりとする。

博士（工学）	博士（理学）
博士（情報学）	
修士（工学）	修士（理学）
修士（情報環境学）	修士（情報学）
学士（工学）	学士（理学）
学士（情報社会学）	学士（情報環境学）
学士（情報学）	

（学位の授与の要件）

第3条 博士の学位は本学大学院学則の定めるところにより、博士課程（後期）を修了した者に授与する。

2 前項に規定する者のほか、本学大学院学則第23条第2項により博士の学位は、本学に学位論文を提出してその審査及び学力の確認に合格し、かつ、人物学力とも本学大学院の博士課程（後期）に所定期間在学し所定の専攻科目について所定単位以上を修得した者と同等以上と認められた者に授与することができる。

3 修士の学位は本学大学院学則の定めるところにより、修士課程を修了した者に授与する。

4 学士の学位は本学大学学則の定めるところにより、本大学を卒業した者に授与する。

第2章 学位の授与

（学位の授与）

第4条 前条における大学院の修士課程及び博士課程（後期）の修了者については、本学大学院学則第23条第1項の定めるところにより、また本大学の卒業者については、本学大学学則第32条第1項の定めるところにより、それぞれ学位を授与する。

(論文提出による学位の授与)

第5条 第3条第2項により、博士の学位論文を提出した者については本学博士課程（後期）によらない学位請求の審査規程の定めるところにより審査の上、学位を授与することができる。

(課程の修了及び論文の審査の議決)

第6条 研究科委員会は、第3条第1項及び第3項によるものについては本学大学院学則の定めるところにより、それぞれ課程の修了の可否を議決する。

2 前項の研究科委員会は、会員総数（長期海外出張者及び休職者を除く）の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

3 第1項の議決は出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。

4 第3条第2項によるものについては本学博士課程（後期）によらない学位請求の審査規程の定めるところに従って決する。

(学長への報告)

第7条 研究科委員会が前条の議決をしたときは、当該研究科委員会の委員長は、すみやかに文書により、学長に報告しなければならない。

2 学部教授会が卒業を認定したときは、当該学部長は、すみやかに文書により、学長に報告しなければならない。

(学位記の交付)

第8条 学長は、前条の報告に基づいてそれぞれ学位記を授与するものとする。

第3章 論文の公表、学位の名称の使用

(論文要旨等の公表)

第9条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表するものとする。

(学位論文の公表)

第10条 博士の学位の授与を受けた者は、当該博士の学位の授与を受けた日から1年以内にその論文を印刷公表するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表したときはこの限りでない。

(学位の名称の使用)

第11条 学位の授与を受けた者は、学位の名称を用いるときは、当該学位を授与した本学名を、博士（工学）（東京電機大学）、博士（理学）（東京電機大学）、博士（情報学）（東京電機大学）、修士（工学）（東京電機大学）、修士（理学）（東京電機大学）、修士（情報環境学）（東京電機大学）、修士（情報学）（東京電機大学）、学士（工学）（東京電機大学）、学士（理学）

(東京電機大学)、学士(情報社会学)(東京電機大学)、学士(情報環境学)(東京電機大学)、学士(情報学)(東京電機大学)のように付記するものとする。

2 学位記の様式は、別表第1から別表第4のとおりとする。

第4章 学位授与の取消、学位記の再交付、学位授与の報告

(学位授与の取消)

第12条 学位を授与された者がその名誉を汚辱する行為があったとき又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、当該研究科委員会又は当該学部教授会の議を経て学位の授与を取消することができる。

(学位記の再交付)

第13条 学位記の再交付は行わない。

(学位授与の報告)

第14条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は当該博士の学位を授与した日から3月以内に所定の様式により、文部科学大臣に報告するものとする。

付 則 (省略)

東京電機大学学生救済奨学金貸与規程

第1条（目的） この規程は、教育の機会均等の精神に基づき、経済的事由が急変したために修学に困難をきたした者に、救済奨学金を貸与し（以下貸与された者を「救済奨学生」という。）、もって学業継続の機会を与えることを目的とする。

第2条（救済奨学資金） この規程による救済奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

第3条（救済奨学生の選考・決定等） 救済奨学生は、東京電機大学大学院、東京電機大学及び東京電機大学短期大学のいずれかに在籍する学生であつて、学業達成に意欲的で心身共に健康であり、かつ、主たる家計支持者の経済的事由の急変が次の各号のいずれかに該当し、学費の支弁が困難であると認められるとともに、救済奨学金の貸与により学業継続が可能であると認められる者のうちから採用する。

- (1) 失業又は事業の倒産
- (2) 被災
- (3) 長期療養
- (4) 死亡
- (5) その他学費の支弁が困難であると救済奨学生選考委員会が認める事項

2 救済奨学生の採用は、救済奨学生選考委員会の選考に基づき、学長がこれを決定する。

第4条（救済奨学金の貸与額） 東京電機大学大学院、東京電機大学工学部、工学部第一部、工学部第二部（平成17年度以前入学者）、理工学部、未来科学部及び東京電機大学短期大学における救済奨学金の貸与額は、それぞれの学則に定める半期分の学費相当額とする。

2 東京電機大学工学部第二部（平成18年度以降入学者）及び情報環境学部における救済奨学金の貸与額は、当該学期の授業料基礎額及び履修予定単位数分の従量額並びに教育充実費相当額とする。

3 救済奨学金は学費に充当しなければならない。

第5条（採用） 救済奨学生の採用は、原則として毎年4月又は10月とし、各校における在籍期間中1回とする。

第6条（救済奨学生の資格停止） 救済奨学生が休学したときは、救済奨学生の資格を停止する。この場合、既に貸与した救済奨学金を返還させることができる。

第7条（救済奨学生の資格取消） 救済奨学生が次の各号のいずれかに該当し、救済奨学生として不適格と認められたときは、救済奨学生の資格を取り消す。

- (1) 退学したとき、又は除籍されたとき。
- (2) 学則に違反して処分を受けたとき。
- (3) 救済奨学生としてふさわしくない行為があったとき。

2 前項により救済奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された救済奨学金の全額を返還しなければならない。

第8条（救済奨学金の返還） 救済奨学金の返還は、元金均等割年賦返済とする。

2 救済奨学金の返還に係る手数料は、救済奨学生が負担する。

3 返還期間は、卒業又は修了あるいは満期退学した年度の翌年度から起算し5年間とする。

ただし、繰り上げて返還することは差し支えない。

第9条（利子） 貸与した救済奨学金は無利子とする。

第10条（褒賞金の給付・返還の免除） 次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、既に貸与した救済奨学金の一部または全部を褒賞金として給付することがある。ただし、褒賞金は返還金に充当しなければならない。

- (1) 卒業あるいは修了時に優秀な成績を修めたとき。
- (2) 卒業あるいは修了時に著しい学業成果を修めたとき。

2 救済奨学生が死亡又は不具廃疾のため返還不能と認められたときは、救済奨学金の返還の一部又は全部を免除することがある。

第11条（事務） 救済奨学生の採用等に係る事務は学生支援センターが、救済奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

第12条（実施） この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付 則（省略）

東京電機大学学生支援奨学金貸与規程

第1条（目的） この規程は、東京電機大学大学院、東京電機大学及び東京電機大学短期大学のいずれかに在学する学生に支援奨学金を貸与し（以下貸与された者を「支援奨学生」という。）、もって学生の有為な自己資質向上に資することを目的とする。

第2条（支援奨学資金） この規程による支援奨学資金は、当該年度の予算の範囲内とする。

第3条（支援奨学生の推薦・決定等） 支援奨学生は、東京電機大学大学院、東京電機大学及び東京電機大学短期大学のいずれかに在学する学生であつて、人物優秀にして学業成績が良好であり、かつ、次の各号のいずれかに該当する者のうちから採用する。

- (1) 本学主催の海外英語短期研修に参加する者
- (2) 自己資質向上を目的とした教育装置等を購入する者
- (3) その他自己資質向上の実現に意欲があると認められる者

2 支援奨学生は、次の各号のいずれかに該当する者を除く。

- (1) 休学中の者
- (2) 留学中の者
- (3) 所定修業年限を超えて在学している者

3 支援奨学生の採用は、学生支援センター長が推薦し、学長がこれを決定する。

第4条（支援奨学金の貸与額） 支援奨学金の貸与額は、30万円の範囲内で学生支援センター長が査定する。

2 支援奨学金は前条第1項の各号に定める用途に充当しなければならない。

第5条（採用） 支援奨学生の採用は、各校における在学期間中1回とする。

第6条（支援奨学生の資格停止） 支援奨学生が休学したときは、支援奨学生の資格を停止する。この場合、既に貸与した支援奨学金を返還させることができる。

第7条（支援奨学生の資格取消） 支援奨学生が次の各号のいずれかに該当し、支援奨学生として不適格と認められたときは、支援奨学生の資格を取り消す。

- (1) 退学したとき、又は除籍されたとき。
- (2) 学則に違反して処分を受けたとき。
- (3) 支援奨学生としてふさわしくない行為があったとき。

2 前項により支援奨学生の資格を取り消された者は、直ちに貸与された支援奨学金の全額を返還しなければならない。

第8条（支援奨学金の返還） 支援奨学金の返還は、元金均等割年賦返済とする。

2 支援奨学金の返還に係る手数料は、支援奨学生が負担する。

3 返還期間は、卒業又は修了あるいは満期退学した年度の翌年度から起算し5年間を限度とする。ただし、在学期間中を含め年賦返済又は繰り上げて返還することは差し支えない。

第9条（利子） 貸与した支援奨学金は無利子とする。

第10条（事務） 支援奨学生の採用等に係る事務は学生支援センター（学生厚生担当）が、支援奨学金の貸付・回収等に係る事務は経理部（会計担当）がそれぞれ分掌する。

第11条（実施） この規程の施行についての細則その他必要事項は、別に定める。

付 則（省略）

沿 革

沿 革

- 1907.9. (明治 40 年) ・東京・神田に電機学校創立 (9 月 11 日)
- 1949.4. (昭和 24 年) ・東京電機大学開設<工学部第一部電気工学科・電気通信工学科設置>
- 1950.4. (昭和 25 年) ・東京電機大学短期大学部開設<電気科第二部設置>
- 1952.4. (昭和 27 年) ・工学部第二部開設<工学部第二部電気工学科設置>
- 1956.2. (昭和 31 年) ・東京電機大学短期大学部を東京電機大学短期大学に名称変更
- 1958.4. (昭和 33 年) ・東京電機大学大学院 (夜間) 開設<工学研究科電気工学専攻 (修士課程) 設置>
- 1960.4. (昭和 35 年) ・工学部第一部電子工学科設置
- 1961.4. (昭和 36 年) ・工学部第一部機械工学科・応用理化学科設置
・工学部第二部電気通信工学科設置
- 1962.4. (昭和 37 年) ・大学院工学研究科博士課程開設<電気工学専攻 (博士課程) 設置>
・工学部第二部電子工学科・機械工学科設置
- 1965.4. (昭和 40 年) ・工学部第一部精密機械工学科・建築学科設置
- 1975.4. (昭和 50 年) ・工学研究科電気工学専攻 (修士課程) (昼間) 設置
- 1977.4. (昭和 52 年) ・鳩山キャンパス開設、理工学部開設<数理学科・経営工学科・建設工学科・産業機械工学科設置>
- 1981.4. (昭和 56 年) ・理工学研究科開設<数理学専攻 (修士課程)・システム工学専攻 (修士課程)・建設工学専攻 (修士課程)・機械工学専攻 (修士課程) 設置>
・総合研究所開設
- 1983.4. (昭和 58 年) ・理工学研究科博士課程開設<応用システム工学専攻 (博士課程) 設置>
- 1984.4. (昭和 59 年) ・理工学研究科数理学専攻 (博士課程) 設置
- 1986.4. (昭和 61 年) ・理工学部情報科学科、応用電子工学科設置
- 1990.4. (平成 2 年) ・千葉ニュータウンキャンパス開設
・工学研究科情報通信工学専攻 (修士課程)・電子工学専攻 (修士課程) 設置
・理工学研究科情報科学専攻 (修士課程)・応用電子工学専攻 (修士課程) 設置
- 1991.4. (平成 3 年) ・工学研究科機械システム工学専攻 (修士課程)・物質工学専攻 (修士課程) 設置
- 1992.4. (平成 4 年) ・工学研究科情報通信工学専攻 (博士課程)・電子工学専攻 (博士課程)、建築学専攻 (修士課程) 設置
・理工学研究科数理学専攻 (博士課程) を数理科学専攻 (博士課程) に名称変更
- 1993.4. (平成 5 年) ・工学研究科機械システム工学専攻 (博士課程)、物質工学専攻 (博士課程) 設置
・工学部第一部・工学部第二部電気通信工学科を情報通信工学科、工学部第一部応用理化学科を物質工学科に名称変更
- 1995.4. (平成 7 年) ・工学研究科建築学専攻 (博士課程) 設置

- 1997.4. (平成 9 年) ・超電導応用研究所、建設技術研究所設立
 ・産官学交流センター設立
- 1997.6. (平成 9 年) ・ハイテク・リサーチ・センター設立
- 1999.4. (平成 11 年) ・理工学部数理学科を数理科学科、経営工学科を情報システム工学科、
 建設工学科を建設環境工学科、産業機械工学科を知能機械工学科、
 応用電子工学科を電子情報工学科に名称変更
 ・フロンティア共同研究センター設立
- 2000.4. (平成 12 年) ・理工学部生命工学科、情報社会学科設置
- 2001.4. (平成 13 年) ・情報環境学部開設<情報環境工学科、情報環境デザイン学科設置>
 ・大学院工学研究科機械工学専攻(修士課程・博士課程)、精密シス
 テム工学専攻(修士課程・博士課程)設置
- 2002.4. (平成 14 年) ・工学部第一部情報メディア学科設置
 ・工学部第一部物質工学科を環境物質化学科、精密機械工学科を機械
 情報工学科に名称変更
 ・理工学研究科生命工学専攻(修士課程)設置
 ・理工学研究科数理科学専攻(博士課程)を数理・情報科学専攻(博
 士課程)、数理学専攻(修士課程)を数理科学専攻(修士課程)、シ
 ステム工学専攻(修士課程)を情報システム工学専攻(修士課程)、
 機械工学専攻(修士課程)を知能機械工学専攻(修士課程)に名称
 変更
- 2003.4. (平成 15 年) ・理工学研究科応用電子工学専攻(修士課程)を電子情報工学専攻(修
 士課程)に名称変更
- 2004.4. (平成 16 年) ・情報環境学研究科(修士課程)開設<情報環境工学専攻(修士課程)、
 情報環境デザイン学専攻(修士課程)設置>
 ・工学研究科情報メディア学専攻(修士課程・博士課程)設置
 ・理工学研究科情報社会学専攻(修士課程)設置
 ・超電導応用研究所を先端工学研究所に名称変更
- 2005.7. (平成 17 年) ・東京電機大学短期大学廃止
 ・工学研究科機械システム工学専攻(修士課程・博士課程)廃止
- 2006.4. (平成 18 年) ・先端科学技術研究科(博士課程(後期))開設<数理学専攻、電気
 電子システム工学専攻、情報通信メディア工学専攻、機械システム
 工学専攻、建築・建設環境工学専攻、物質生命理工学専攻、先端技
 術創成専攻、情報学専攻設置>(※工学研究科博士課程、理工学研
 究科博士課程を廃止)
 ・理工学研究科建設工学専攻(修士課程)を建設環境工学専攻(修士
 課程)に名称変更
 ・情報環境学部情報環境学科設置(※情報環境学部情報環境工学科、
 情報環境デザイン学科学生募集停止)
- 2007.4. (平成 19 年) ・創立 100 周年(9 月 11 日)
 ・未来科学部開設<建築学科、情報メディア学科、ロボット・メカト
 ロニクス学科設置>
 ・工学部開設<電気電子工学科、環境化学科、機械工学科、情報通信
 工学科設置>(※工学部第一部電気工学科、電子工学科、環境物質

- 化学科、機械工学科、機械情報工学科、情報通信工学科、情報メディア学科、建築学科の学生募集停止)
- ・理工学部理工学科設置< 4 学系体制：サイエンス学系、情報システムデザイン学系、創造工学系、生命理工学系>（※理工学部数理科学科、情報科学科、情報システム工学科、建設環境工学科、知能機械工学科、電子情報工学科、生命工学科、情報社会学科の学生募集停止）
- 2008.4.（平成 20 年）・工学部第二部電気電子工学科設置（※工学部第二部電気工学科、電子工学科の学生募集停止）
- 2009.4.（平成 21 年）・未来科学研究科（修士課程）開設< 建築学専攻、情報メディア学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻設置 >
- ・工学研究科電気電子工学専攻（修士課程）設置（※工学研究科電気工学専攻（修士課程）、電子工学専攻（修士課程）、精密システム工学専攻（修士課程）、情報メディア学専攻（修士課程）、建築学専攻（修士課程）の学生募集停止）
 - ・理工学研究科理学専攻（修士課程）、情報学専攻（修士課程）、デザイン工学専攻（修士課程）、生命理工学専攻（修士課程）設置（※理工学研究科数理科学専攻（修士課程）、情報科学専攻（修士課程）、情報システム工学専攻（修士課程）、建設環境工学専攻（修士課程）、知能機械工学専攻（修士課程）、電子情報工学専攻（修士課程）、生命工学専攻（修士課程）、情報社会学専攻（修士課程）の学生募集停止）
 - ・情報環境学研究科情報環境学専攻（修士課程）設置（※情報環境学研究科情報環境工学専攻（修士課程）、情報環境デザイン学専攻（修士課程）の学生募集停止）
 - ・理工学部理工学科学系再編< 5 学系体制：理学系、生命理工学系、情報システムデザイン学系、電子・機械工学系、建築・都市環境学系へ再編 >
- 2010.4.（平成 22 年）・工学研究科電気工学専攻（修士課程）、電子工学専攻（修士課程）の廃止
- ・理工学研究科数理科学専攻（修士課程）、情報科学専攻（修士課程）、情報システム工学専攻（修士課程）、建設環境工学専攻（修士課程）、知能機械工学専攻（修士課程）、生命工学専攻（修士課程）、情報社会学専攻（修士課程）の廃止
- 2010.9.（平成 22 年）・工学研究科情報メディア学専攻（修士課程）の廃止
- 2011.3.（平成 23 年）・建設技術研究所の廃止
- 2011.4.（平成 23 年）・工学研究科精密システム工学専攻（修士課程）、理工学研究科電子情報工学専攻（修士課程）、情報環境学研究科情報環境デザイン学専攻（修士課程）の廃止
- ・情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科の廃止
- 2012.4.（平成 24 年）・東京千住キャンパス開設（先端科学技術研究科（東京神田キャンパス所属）、工学研究科（修士課程）、未来科学研究科（修士課程）、工学部、工学部第二部、未来科学部が、東京神田キャンパスから東京千住キャンパスへ移転）

その他

東京電機大学 校歌

歯切れよく 雄大に

草野心平 作詞

平岡照章 作曲

1. に ち りん は て ん に か が や き
2. て ん た い は い よ よ ち か づ き

は く う ん は ふ じ に わ き た つ と も が ら よ
め ぐ る し き じ か ん は は や し と も が ら よ

ま ゆ あ げ よ お、い な る れ き し の な か で
ゆ め も て よ お、い な る じ く う を め ぎ し

わ れ ら あ た ら し い し ん り を つ く る 一 と う き よ
わ れ ら あ た ら し い ふ ん か を つ く る 一 と う き よ

う 一 で ん だ い 一 わ れ ら が 一 ほ こ う 一 あ
う 一 で ん だ い 一 わ れ ら が 一 ほ こ う 一 あ

あ 一 た た え ん か な そ の 一 一 で ん と う 一
あ 一 さ ん ぜ ん た り そ の 一 一 み ら い 一

東京電機大学校歌

一、日輪は 天にかがやき

白雲は 富士に沸きたつ

朋がらよ 眉あげよ

大なる 歴史のなかで

われら新しい 真理を創る

東京電大 われらが母校

あ、讃えん哉

その伝統

二、天体は いよよ近づき

めぐる四季 時間は早し

朋がらよ 夢もてよ

大なる 時空をめぐらし

われら新しい 文化を創る

東京電大 われらが母校

あ、燦然たり

その未来

東京電機大学 学生歌

望月直文 作詞

田辺尚雄 作曲



1. ミヨニッポンノ アサボラケ ジュウノ テンチココニア
 2. きけたそがれの かねのこえ へいわの いのりここにあ
 3. アイクマンノ ハラカラヨ ワレラノ ホコリココニア



リ レイ ロ ウ フー ジ ヲー アオギツツ
 リ あー い とー まこ とをー たたえつつ
 リ シン リ ヲー キー ワメー ワザヲネリ



キヨキ ココロノー ワカウドハ ジリツキョーワノ
 あつき ちしほのー わかうどは つくやひびきも
 モジュール キボウノー ワカウドハ イマキンテツノ



ハタタカク ミンシュノセカイ サキガケン
 おーらかに くおんのりそう ぐげんせん
 イシカタク アンカノハギョウ ナシトケン

東京電機大学学生歌

一、見よ日本のあさばらけ

自由の天地ここにあり

玲瓏富士を仰ぎつつ

高潔き心の若人は

自律協和の旆高く

民主の世界先駆けん

二、聞け黄昏の鐘の音

平和の祈願ここにあり

信愛と誠実をたたえつつ

熱き血潮の若人は

撞くや響もおほらかに

久遠の理想具現せん

三、ああ幾万の同胞よ

我等の誇りにここにあり

真理を究め技術を練り

燃ゆる希望の若人は

今金鉄の意志かたく

文化の覇業なしとげん

大学キャンパス所在地

東京千住キャンパス

〔大学（未来科学部、工学部、工学部第二部）・大学院（未来科学研究科、工学研究科、先端科学技術研究科）〕

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番

工学部・未来科学部事務部（教務担当） 03-5284-5333

学生支援センター（学生厚生担当） 03-5284-5340

学生支援センター（キャリア支援・就職担当） 03-5284-5344

千葉ニュータウンキャンパス

〔大学（情報環境学部）・大学院（情報環境学研究科、先端科学技術研究科）〕

〒270-1382 千葉県印西市武西学園台2-1200

TEL：0476-46-4111

埼玉鳩山キャンパス

〔大学（理工学部）・大学院（理工学研究科、先端科学技術研究科）〕

〒350-0394 埼玉県比企郡鳩山町石坂

TEL：049-296-0042

本冊子は新入生のみ配布されます。
修了するまで大切に取扱ってください。



未来科学研究科

TDU